

ORIGAMI TANTEIDAN

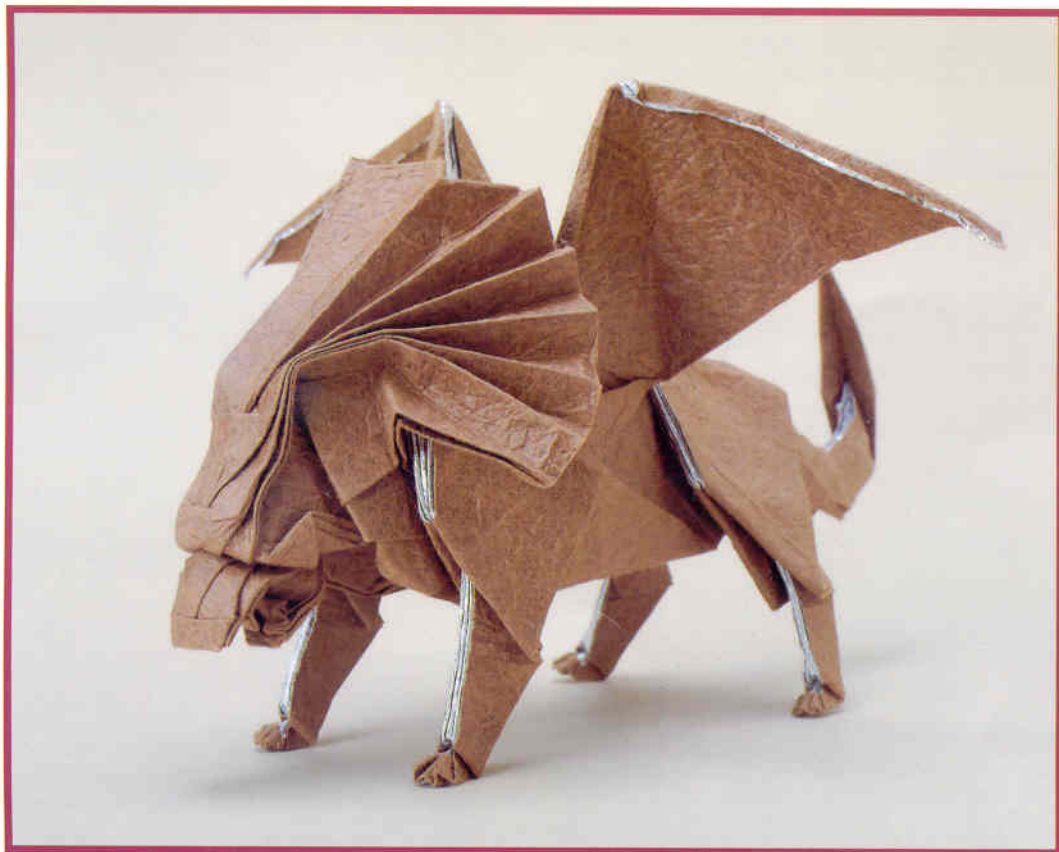
折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 600円

イベント情報 Southeast Origami Festival 2000 Report

サウスイースト オリガミフェスティバル 2000 レポート



クローズアップ Close-up : Origami as Art ~ What Folders Can Learn from Modern Paintings ~

Hatori Koshiro

芸術としての折り紙

~現代絵画から
折り紙が学ぶこと~

羽鳥公士郎

折り図 Christmas Present

Nishikawa Seiji

"Hey, Sushi!"

Kinoshita Go

クリスマスのプレゼント

西川誠司

すしー丁!

木下 剛

展開図折りに挑戦 Crease Pattern Challenge : A Winged Lion

Kozasa Keiichi

翼のあるライオン

小笹径一

好評連載

A Philological Survey of Origami : Okamura Masao! New Origami Sampo : Maekawa Jun

おりがみ庵・読み歩き:岡村昌夫/新・折紙散歩:前川 淳

Tomoko in the Box : Fuse Tomoko / Tomoko's Shikishi-Hyakka : Tanaka Tomoko

TOMOKOのびっくり箱:布施知子/ともこさんの色紙百花:田中具子

通巻 64 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

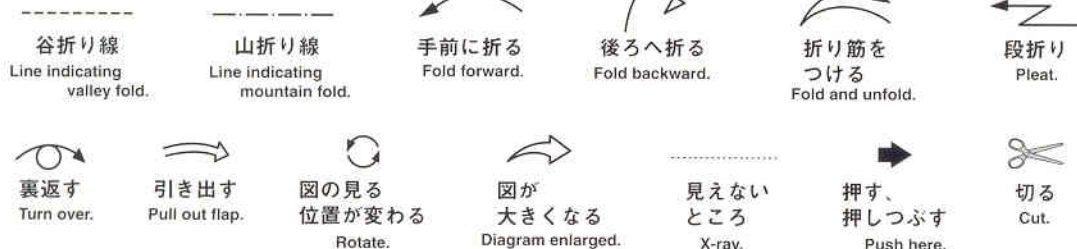
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

● 折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING



表紙作品解説

翼のあるライオン
作: 小笹径一 (P.33)
A Winged Lion
Kozasa Keiichi (P.33)

■第4回TVチャンピオンでも健闘した小笹氏による空想動物。氏はキャラクターや怪獣作品を得意とし、ファンの期待に的確に応える表現力の高さが注目されています。全体的に繊細にまとめられ、かつ折り紙らしい技法を主体とした作風は非常に好感が持てます。これまでにないたてがみの表現も重要な注目ポイントです。(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. **64**

C O N T E N T S

■ 好評連載陣

Series

TOMOKOのびっくり箱 4

Tomoko in the Box

ぜんまい折り-1 Whirlpool Patterns - 1

布施知子 Fuse Tomoko

ともこさんの色紙百花 8

Tomoko's Shikishi-hyakka

ベゴニア Begonia

田中具子 Tanaka Tomoko

折り紙テクニック講座 14

The Technique of Paper Folding

FILE 02: 裏打ち Paper Backing

おりがみ庵 読み歩き 16

A Philological Survey of Origami

第4回

岡村昌夫 Okamura Masao

新・折紙散歩 18

第4回 悪魔の足の冒険

New Origami Sampo (Origami Walk)
- The Adventure of The Devil's Foot -

前川 淳 Maekawa Jun

世界の折り紙団体 34

World's Origami Organizations Fuse Tomoko

第4回 Origami Deutschland (ドイツ)

■ カラーページ

ORIGAMI PHOTO GALLERY 20

解説・北條高史 Comments: Hojyo Takashi

「ベゴニア」田中具子／「ぜんまい折り」布施知子

／「魔女」リオネル・アルベルティーノ

／「鯉」ロバート・J・ラング

Begonia: Tanaka Tomoko /

Whirlpool Patterns: Fuse Tomoko /

Witch: Lionel Albertino / Carp: Robert J. Lang

■ クローズアップ

Close-up

芸術としての折り紙 11

～現代絵画から折り紙が学ぶこと～

Origami as Art-What Folders Can Learn from Modern Paintings-

羽鳥公士郎 Hatori Koshiro

■ 折り図

Diagrams

クリスマスのプレゼント 22

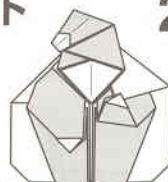
Christmas Present

作: 西川誠司

図: 小松英夫

Model by Nishikawa Seiji

Diagrams by Komatsu Hideo



すしー丁! "Hey, Sushi!" 25

作・図: 木下 剛 Model and Diagrams
by Kinoshita Go

勝ちゃんの面白折り紙・・・2 Kat-chan's Fun Origami 29

パンチ包み・かえる "Frog Hole Punch Cover"

作・図: 山田勝久 Model and Diagrams
by Yamada Katsuhisa

展開図折りに挑戦! 33

Crease Pattern Challenge

翼のあるライオン

A Winged Lion

小笹径一 Kozasa Keiichi

■ エッセイ・コラム

Essay & Column

おりすじ 立石浩一 31

Orisuji ("Fold-Creases") Tateishi Koichi

折紙三昧 西川誠司 32

Origami-Zanmai Nishikawa Seiji
(This Origami and That)

■ インフォメーション

北條高史の突撃折り紙レポート 35

Hojyo Takashi's Origami Spread

折り紙シミュレーター編 Origami Simulator

北條高史 Hojyo Takashi

つまみおり Rabbit Ear (Information) 36

・サウスイーストオリガミフェスティバルレポート
Southeast Origami Festival Report

Fuse Tomoko
布施知子

第10回 Whirlpool Patterns - 1 (Square)

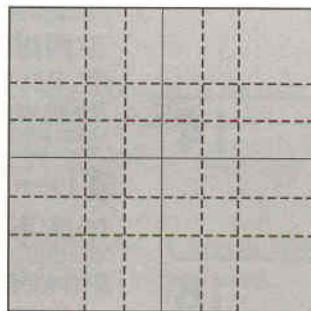
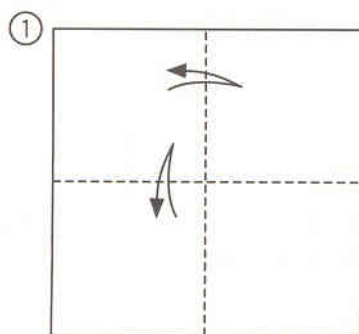
ぜんまい折り・1 (正方形)

平織りの分野は、藤本修三、桃谷好英両氏を先達として、川崎敏和氏、クリス・パルマー氏らによって相当に研究されており、そちらはおまかせ、と思っていましたが、ひょんなことから方向が平織りに向かい新作を考えつきました。とは言っても、すべて藤本修三氏の基本の上に立ったものです。

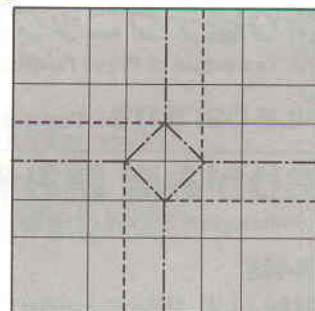


ポイントはねじり折りを重ねる「段重ねねじり」です。ねじり折りを何段か重ねると、紙がぐるぐる巻かれて渦巻きができます。これを「ぜんまい折り」と名付けました。平織りがはじめての人は＜練習1＞から取り組んでください。経験者は＜練習2＞からどうぞ。

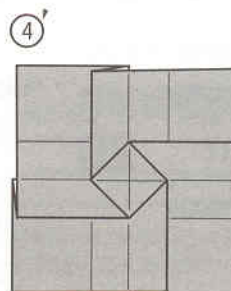
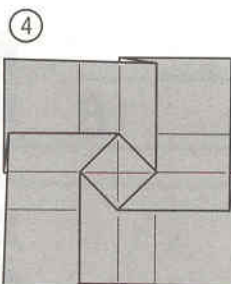
練習：1 一段ねじり



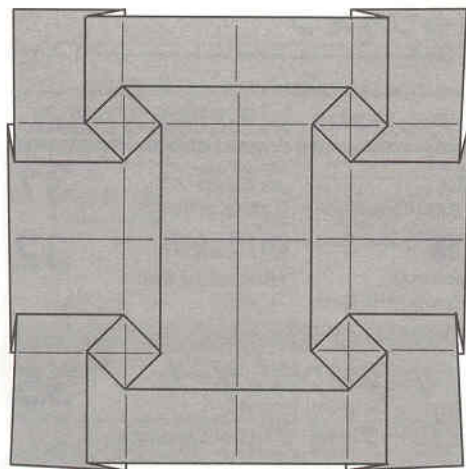
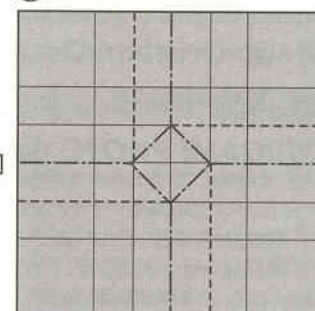
③ 右巻き



十字につまんでねじり折りをする



③' 左巻き



左巻きと右巻きをつなげて
どんどん折っていきます

▶ 平織り ◀ 作：藤本修三

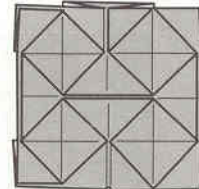
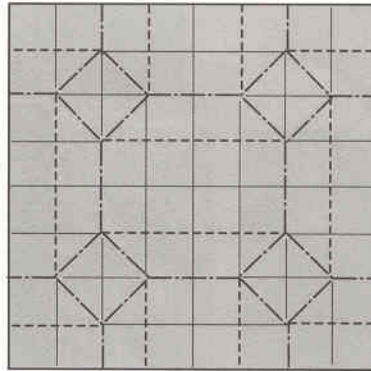
『平織り』と総称される折り方の根源というか、『平織り』の中の「平織り」という名前がつけられている作品です。ねじってつぶした正方形がとなり合うようにしてあります。今回の「ぜんまい折り」は練習以外、すべてこのパターンです。

一つの単位



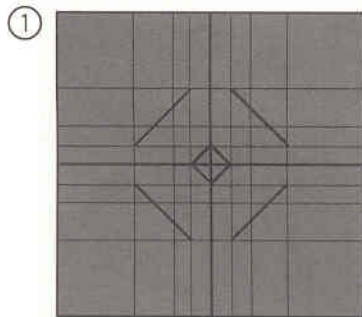
太線—山線
細線—谷線

4つつないだ図

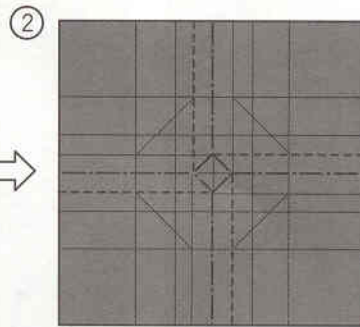


練習：2 二段ねじり

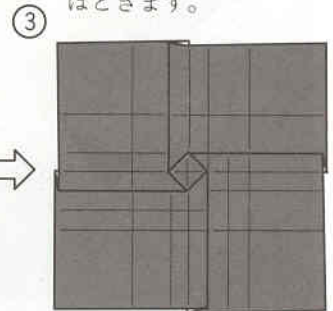
いよいよ段重ねねじりです。
図のような折り線をつけます。
太線—山線 細線—谷線



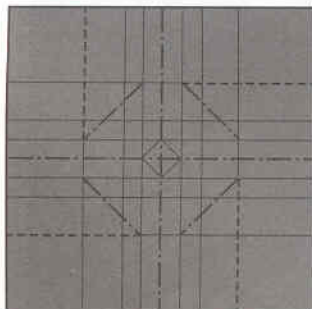
まず、真ん中の一段目をねじり
折りします。



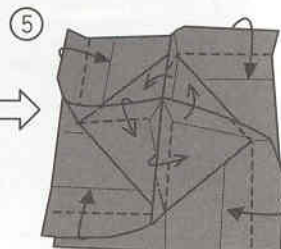
一段折ったら、いったん
ほどきます。



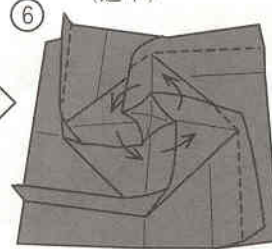
④ 二段目をねじり折りします。
下部は中央でとじています。



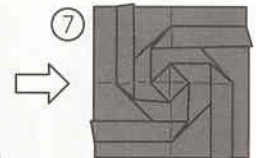
ひだをよせてつまみなが
ら、二段目を平らにつぶ
し、一段目を2のように、
また折り直します。



(途中)



上から見て、二段目の
大きい四角の上に一段
目の小さい四角が乗っ
ています。



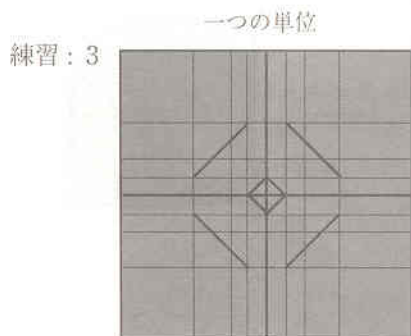
練習3は、練習2の折り方を4つ合わせて「ぜんまい折り」をしたものです。作品に仕上げるときは、無駄な折り線がない方がすっきりするので、4つ合わせた図はその線をとってあります。

「練習：3」とAを比べてください。Aは折り返したひだがびったり重なるように設計してあります。

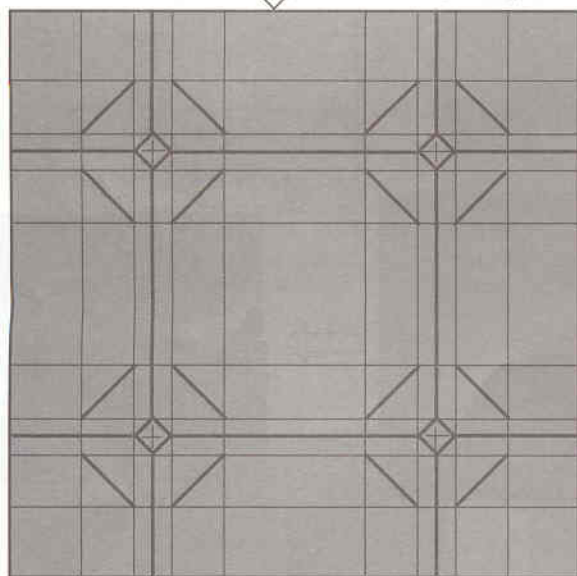
このように、段重ねを何回、どんな間隔でするかによって、さまざまな「ぜんまい」もようができます。

以下にいくつか作例を示します。

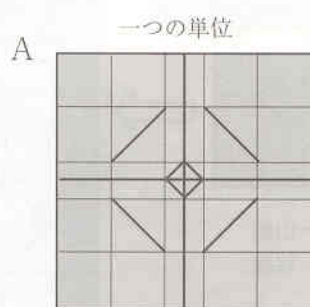
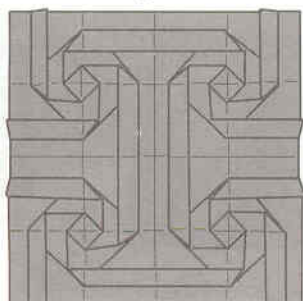
また、BCのように、ひだを平らに折らないで、そのまま立てておいてもおもしろいものができます。



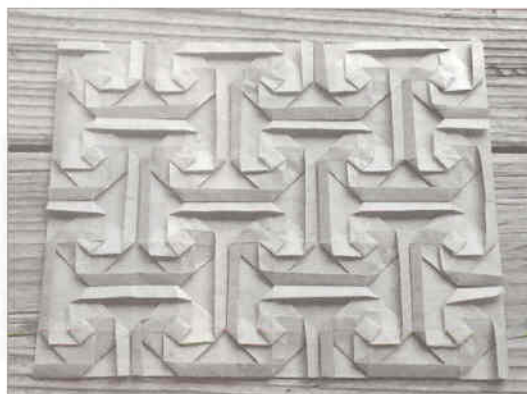
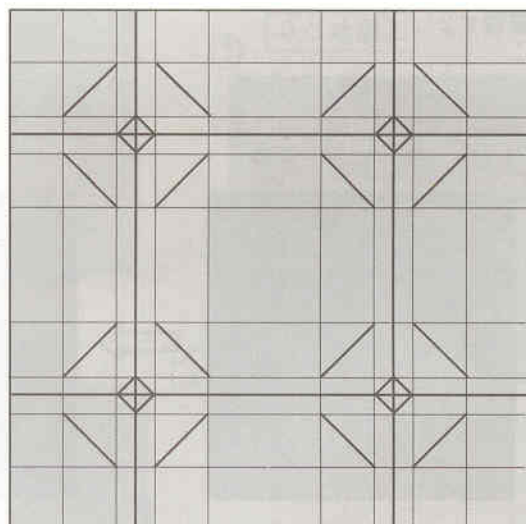
4つつないだ図



太線：山線 あと基本的には谷線をつける

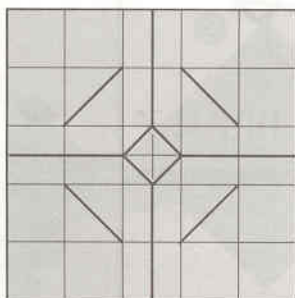


4つつないだ図



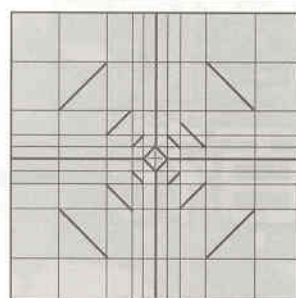
B

二段
ひだを立てたもの



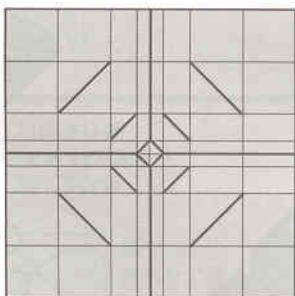
C

四段
ひだを立てたもの



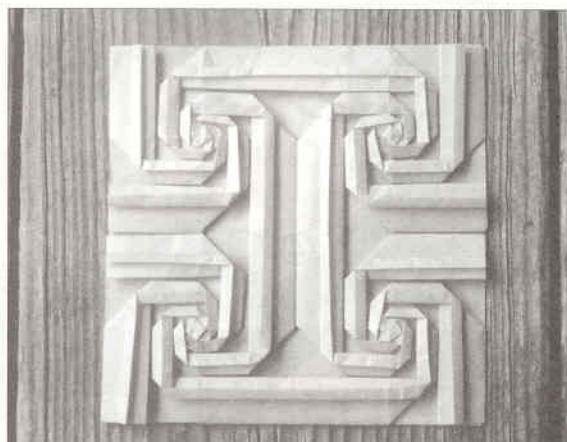
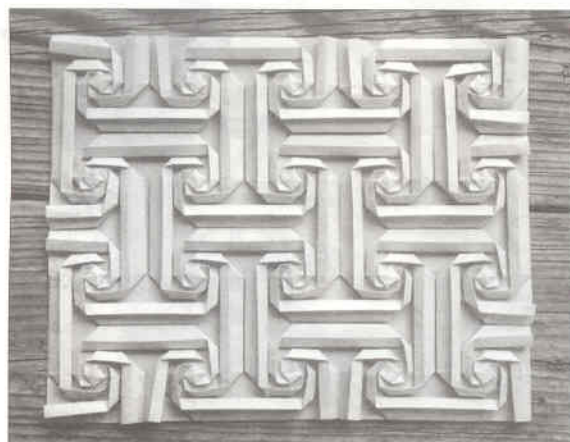
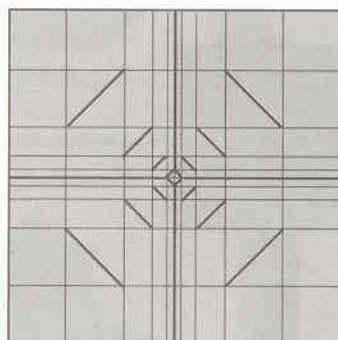
D

三段
ひだを平らにしたもの



E

四段
ひだを平らにしたもの



ところで、三角形でもまた「段重ねねじり」をして「ぜんまい折り」をすることができます。
次回をおたのしみに。なお、今回は紙面がなくショートエッセイはお休みしました。

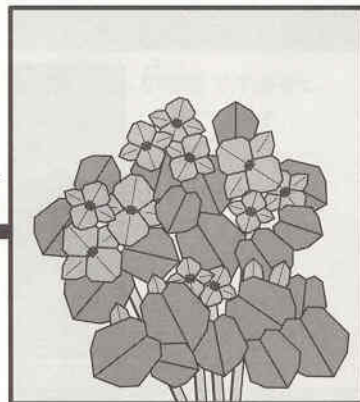
ももこさんの 色紙 百花

ベゴニア

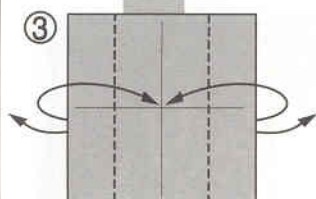
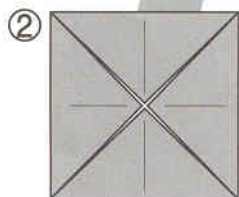
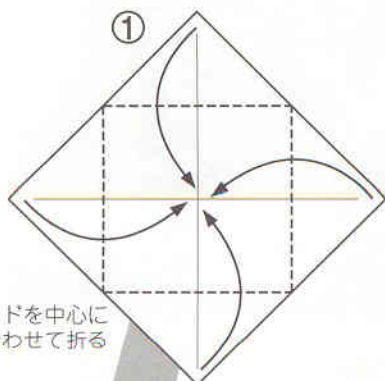
Begonia

田中具子
Tanaka Tomoko

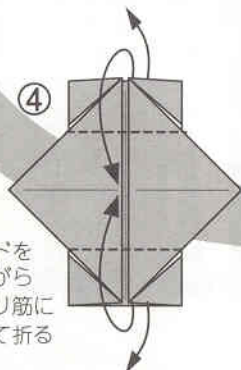
レイアウトは重なりが多いので注意して下さい。



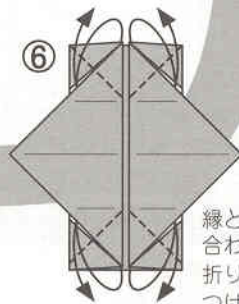
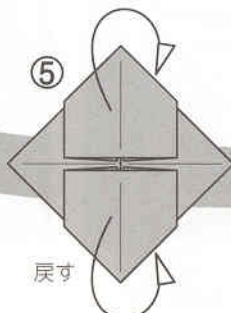
[花] [花]の大きさ
7cm×7cm 3枚
6cm×6cm 5枚
5cm×5cm 3枚



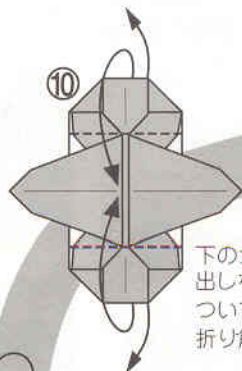
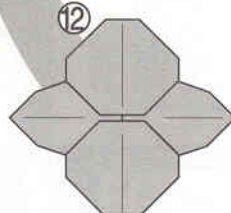
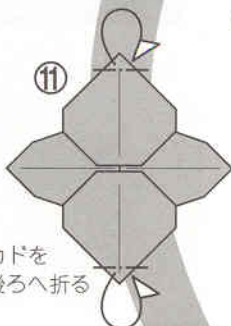
下のカドを
出しながら
縁を折り筋に
合わせて折る



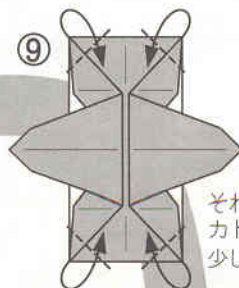
下のカドを
出しながら
縁を折り筋に
合わせて折る



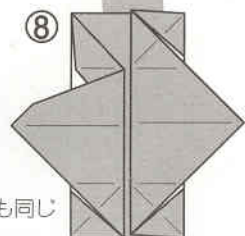
縁と縁を
合わせて
折り筋を
つける



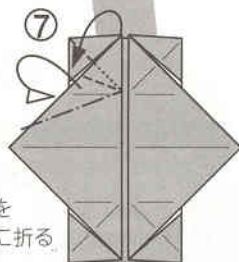
下のカドを
出しなが
らついて
いる折
り筋で折
る



それぞれ
カドを
少し折る

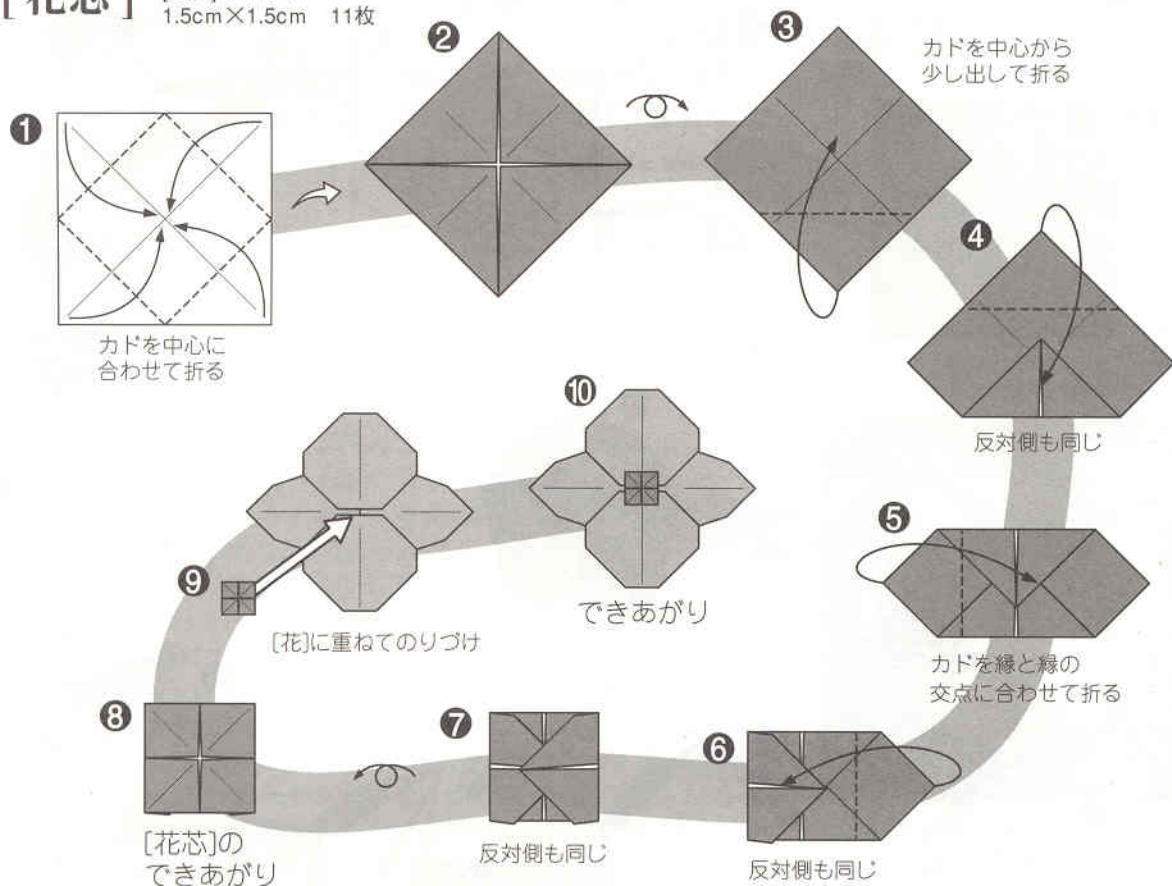


残りも同じ

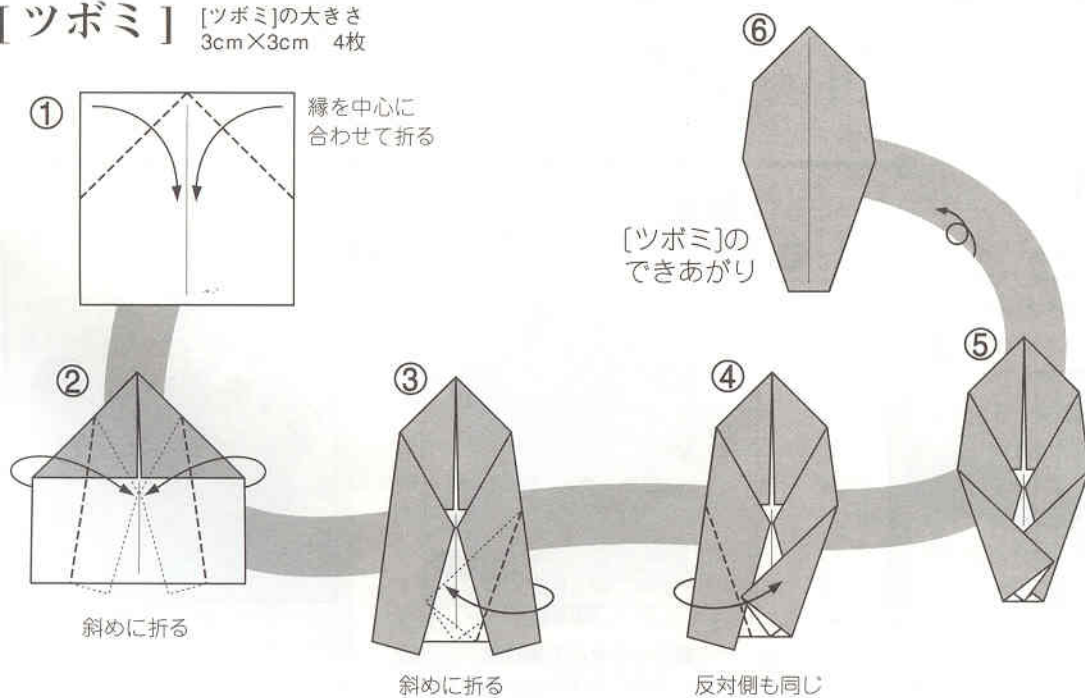


カドを
内側に折る

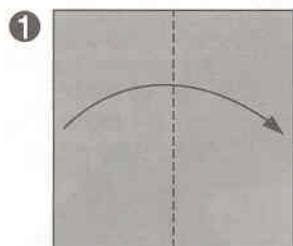
[花芯]

[花芯]の大きさ
1.5cm×1.5cm 11枚

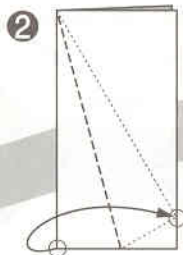
[ツボミ]

[ツボミ]の大きさ
3cm×3cm 4枚

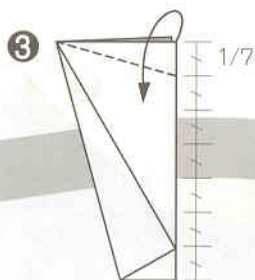
[葉] [葉]の大きさ 6cm×6cm 6枚 5cm×5cm 8枚 4cm×4cm 6枚



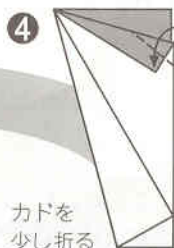
半分に折る



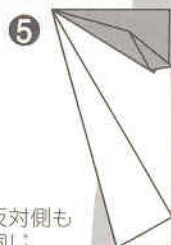
カドを縁に
合わせて折る



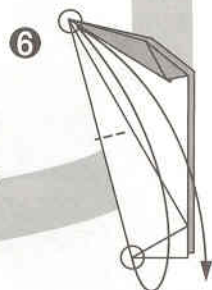
1/7のところで
カドを斜めに折る



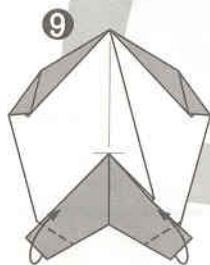
カドを
少し折る



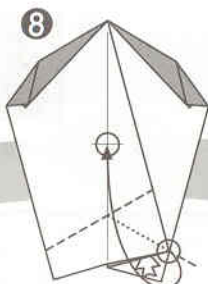
反対側も
同じ



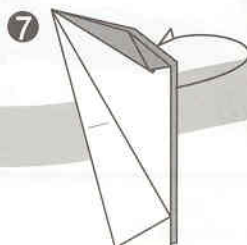
カドとカドを
合わせて
印をつける



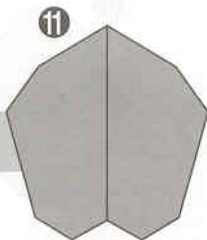
カドを
斜めに折る



カドを印に合わせて
内側をひろげて
つぶすように折る



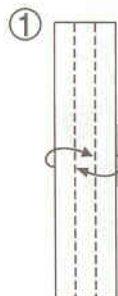
カドを
後ろへ折る



[葉]の
できあがり

[茎]

[茎]の大きさ
1.5cm×15cm 1枚
1.5cm×13cm 1枚
1.5cm×10cm 2枚

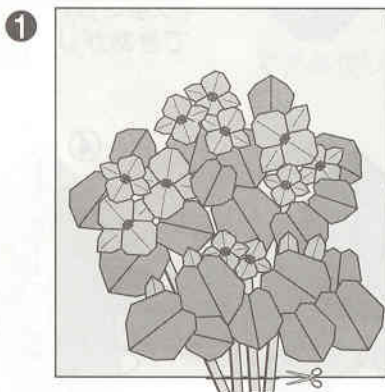


三つ折りに
する

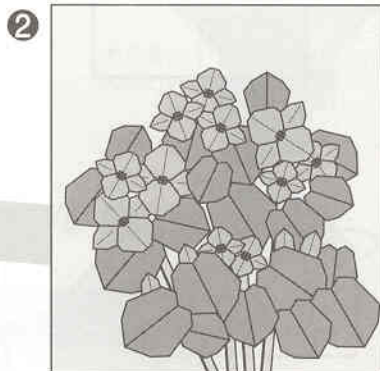


[茎]の
できあがり

[組み方]



重なりを
考えて奥から
レイアウトする



できあがり

芸術としての折り紙

～現代絵画から折り紙が学ぶこと～

Origami as Art - What Folders Can Learn from Modern Paintings -

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

ピカソの絵をゴランになったことがあるのでしょうか。人によっては、モンドリアンやカンディンスキー、デ・クーニングやウォーホルの絵を見たことがあるかもしれません。そして、こう思ったかもしれません。「どうしてこの人はこんな絵を描いたのだろう」と。

現代絵画の誕生には、写真の登場というできごとが深くかかわっています。写真が登場する前には、絵画は世界の窓であるという考えがありました。額縁が窓枠で、キャンバスはガラスです。画家は、透明なガラスを透して世界を見るのと同じような仕方で、キャンバスに絵を描くのです。しかし、絵画が世界の窓だとすれば、写真も同じです。しかも、写真の方がはるかに手っ取り早く世界を写すことができます。19世紀のある画家は、写真というものをみて「今日を限りに絵画は死んだ」といいました。

しかし絵画は死にませんでした。それは、絵画が写真とは異なる存在価値を持っているからです。19世紀後半から20世紀にかけての西洋の画家は、そのことをあらためて明らかにする必要があります(註1)。非常に興味深いことに、何人かの現代の画家、たとえばモネは、下書きを描くかわりに写真を使うことがあります。もし絵画が世界の窓に過ぎないならば、すなわち画家があれやこれを描きたかったのであれば、写真の

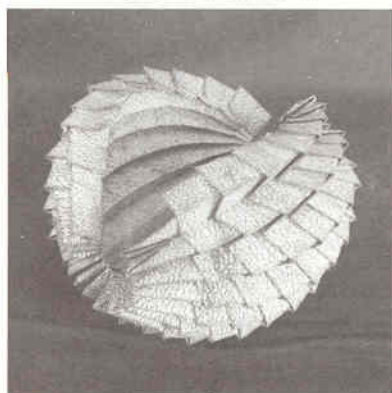
上に付け加えるものは何もないでしょう。モネが描いたものは睡蓮の花や葉ではありません。

絵画は、あるいは絵画に限らず芸術は、世界の本質を再現(アリストテレスの言葉ではミメシス)するものです。画家は、私たちが普段見ている世界ではなく、画家の目を透して見た世界を私たちに提示するのです。絵画は世界を別の切り口で描くことができます。そして、絵画によってしか示すことのできない切り口というものがあるのです。画家がそのような切り口を私たちに示してくれたとき、写真や彫刻とは異なる存在価値を持った絵画が成立します(註2)。

モネは世界を、睡蓮の池を、ありのままに描きました。ただし、モネの目を透して描いたのです。セザンヌはモネを評してこういいました。「彼は目に過ぎない。しかし、なんという目だろうか。」ここでは、世界が表現されているというよりも、世界を再現するスタイルが表現されているのです。

ここで、折り紙について考えてみましょう。私たちは、写真もペーパークラフトもある現代に生きています。実物と同じ形をした模型を作りたければ、折り紙で作る必要はありません。一枚の正方形の紙を折るだけで実物そっくりの模型を作ったら、「すばらしい」といわれるかもしれません。では、はさみを使ったらすばらしくなくなるのでしょうか。紙を二枚使ったらすばらしさが半減するのでしょうか。問題はそういうことではないはずです。折り紙には折り紙にしかできな

▼ボール・ジャクソン氏の抽象造形



いことがあるはず。折り紙作品が、折り紙を透してでなければ見ることでできない世界を再現しているものでなければ、折り紙作品を見る意味があるでしょう。

再び絵画に話を戻しましょう。しばしば、現代絵画はよくわからない、といわれます。それは、もしかすると、「何が描いてあるのかわからない」ということかもしれません。では、静物画を見て、「果物が描いてある」ということがわかったとして、それでその絵画がわかったといえるのでしょうか。そもそも、絵画は「わかる」ものなのでしょうか。「答えはない、なぜなら、問いがないからだ」とはデュシャンの言葉だと伝えられています。

では、私たちは絵画をどう見ればよいのでしょうか。デニはこういっています。「絵画は、軍馬や裸婦や物語である前に、ある秩序を持った色で覆われた平面であるということを忘れてはならない。」つまり、絵画をみるときは、それが抽象的な絵画であろうと具象的な絵画であろうと、またいつの時代に書かれた絵



▲ヴァンサン・フロデュレール氏の抽象造形

芸術としての折り紙

～現代絵画から折り紙が学ぶこと～

Origami as Art

～ What Folders Can Learn from Modern Paintings ～

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro



▲エリック・ジョワゼルの「笑う男」

画であろうと、何が描いてあるかをみる前に、色のバランスや構図などをみることになるのです。この段階を飛ばしてしまうと、リキテンスタインの絵が漫画にしか見えません(註3)。

折り紙作品も、何かに見立てられる前に、折られた紙です。そして、折られた紙によって再現される世界こそが、折り紙を透してでなければ見ることでできない世界です(註4)。抽象的な作品であろうと具象的な作品であろうと、折り手は紙と折りにもっと気を配らなくてはなりません。

まず、紙は、幾何学的な正方形ではなく、色や質感や厚みや手触りや匂いを持った物理的存在であるということを忘れてはなりません。紙は折る前からすでに立体なのです。折り紙作品は、これらの紙の性質を生かしていなければなりません。たとえばジョワゼルは「作品を創作するより紙を選ぶほうがよっぽど難しい」といいます。また、ラ・フォースは、一つ一つの作品を折るに際して紙を自ら作っています。

次に、一つ一つの折りが表情豊かであればなりません。吉澤は、多くの場合、紙を宙に浮かせて折ります。紙を机の上で折った場合、指は紙の片側だけにしか触れません。紙を宙に浮かせて折れば、紙の折れを両面から感じることができます。こうすることによって、彼は一つ一つの折りを自在に調整しているのです。紙を折るのに爪を使ったりへらを使ったりするのは、私はあまり感心しません。

絵画は単なる世界の窓ではない、
といました。絵画は、何ものかの像であるかもしれませんが、そうでないかもしれませんが、いずれにせよ、絵画として、この世に存在しています。つまり、絵画はそれ自体オブジェでもあるわけです。何人かの現代の画家はこの事実を重く見えています。彼らは、キャンパスの上の絵の具を見せるのではなく、絵の具の塗られたキャンパスを見せるのです。

キャンバスや紙などを専門用語で「支持体」といいます。それらは伝統的に絵の具を載せるためのものでした。キャンパスの上には、絵の具が染み込まないよう目地止めが塗られ、絵の具の発色がよくなるよう下地が塗られました。支持体は文字通り、絵画をサポートするものだったのです。しかし、今日では、多くの画家が生のカンバスを使っています。絵の表面にはキャンバスの色や凹凸が現れます。キャンバスは透明なガラスではなくなり、それ自体の個性を主張し始めるのです。ローゼンバークはこういいます。「それは自然を複製するのではない、それが自然なのだ。」

ステラは、さまざまな形をしたキャンバスを使い、色を塗らない領域を残すこともあります。さらに、フォンタナは、キャンバスに色を塗った後、ナイフで切り込みを入れることによって、絵画の「もの」としての性格を強調しました。絵画はもはや幻想を見せる窓ではあり得ません。何しろ、キャンバスの向こう側には木枠が見えるのですから。

このことを念頭において折り紙を考えれば、折り紙の新しい可能性に気がつきます(註5)。私たちは、「折り」と折りを載せるための紙」を考えるかわりに、「紙と紙を見せるための折り」を考えることができます。この考えでは、折り紙作品を折ることはもちろん、折り紙作品の創作も、現実の紙を手にすることから始まります。折り方を考えてから紙を探すのではなく、紙の個性を基準に折り方を考える



▲エリック・ジョワゼルの「デビッド・ブリル裸像(制作途中)」

○羽鳥公士郎(はとり こうしろう)=1972年12月11日生まれ。
現在、ジョージ・ワシントン大学大学院(美術館学)に在学中。
今もっとも関心があるのは「揉み紙」の技法です。
フロデュレールさんとは違ったアプローチを模索しています。



のです。

紙はそれ自体、人が心をこめてつくったものであり、ある魅力を持っています。とてもきれいな紙ならば、折ることによってその魅力が損なわれるかもしれませんが。そのような紙は折り紙には向かないでしょう。一方、折ることによって紙に潜んでいた魅力が引き出されるとき、すばらしい折り紙作品ができるでしょう(註6)。

最後に、私がいま考えていることについてお話ししたいと思います。折り紙作品を人に見せたときに、たいいていの人は「私も折ってみよう」とは思わないものです。ましてや「私も創作をしてみよう」という人はまれです。創作することや折ることに折り紙の喜びがあるのだとしたら、それをどうやって折らない人

に伝えることができるでしょうか。

バルトはこういっています。「要するに、絵画の問題とは『あなたはトゥオンブリの絵が描きたいですか』ということである。トゥオンブリの絵は、一見すると子供の落書きのようです。しかし、それは決していいかげんに描かれてはいません。それでも落書きのように見えるのは、「描く」という行為の喜びが表現されているからです。トゥオンブリの絵にもボロックの絵にも、しばしば数字が描かれます。ボロックは手形を使うこともあります。どちらも「書く・描く」という行為そのものに喜びを感じ、その行為のしるしを残そうとする子供の絵、スプレの落書き、あるいは穴居人の絵を連想させます。

トゥオンブリの絵はクレヨンの優雅な飛翔の記録です。一方、ボロックの絵はもっと現実的な、重たい行為の記録ですが、いずれの場合も、私たちは絵の中にダンスにも似た身振りを見てとることができます。折り紙でも、作品を見る人に、紙を折る身振りを伝えることができるでしょう。紙を折らない人に、でき上がった作品を見せるだけで、「折る」という行為の喜びを伝えることができるでしょう(註7)。そのときにはじめて、西川のいう「四次元的」折り紙が成立するのではないのでしょうか。

この考えについてジャクソンと話す機会がありました。彼はこういっていました。「折り紙作品は、それが一枚の紙から折られているという感覚を与えるようではなくてはならない(註8)。」

Photographed by Yamaguchi Makoto
Models from Southeast Origami Festival 2000 in Charlotte, NC.



▲ヴァンサン・フロデュレール氏の「樹」

註1:このことについては、写真の登場のほかにも理由が考えられます。たとえばグリーンバーグは、この理由を、カントの哲学に代表される「近代」性に求めています。あるいは日本美術との出会いも一つの理由かもしれません。
註2:絵画が単なる世界の窓でないのと同様に、写真もまた単なる世界の窓ではなく、それゆえ写真も芸術の一分野であります。
註3:一方、この段階でとどまってしまうのは、絵画を見る楽しみが半減するというものです。ロスコはこういっています。「もし私の絵の、色の関係だけで感動するのなら、焦点がずれている!」

註4:私はここで、折り紙を折らない鑑賞者を想定しています。

註5:「新しい可能性」と書きましたが、このことは、特にヨーロッパにおいて、何年も前から実践されています。ジャクソンが私に、この可能性について気づかせてくれました。

註6:この点に興味のある方は、拙文「読書ノート『ジョン・ケージ 小鳥たちのために』」(<http://www.origami.gr.jp/People/CAGE/Philosophy/005.html>)もあわせて読んでください。

註7:このことはすでに吉澤が実現しているといっているでしょう。

註8:もちろん、これは、実際に一枚の紙から折られている作品についていっているのです。

折り紙 テクニック 講座

The Technique of Paper Folding

FILE 02 — Paper Backing —

和紙裏打ち技法

◆和紙や千代紙などを使って作品作りをするときには、裏打ちをすると張りが出て折りやすくなり、またしっかりして丈夫にもなります。ここでは表具師が裏打ちをするときの技法を簡単にまとめてみました。(図版制作:おりがみはうす 指導:山口 真)

■ 準備するもの

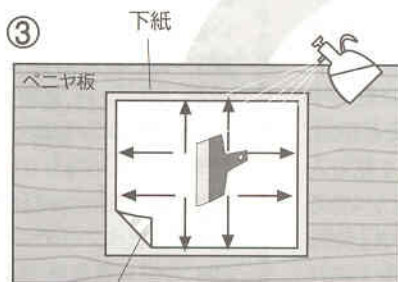
- 下紙 = 桜紙、ハトロシ紙など(新聞紙可)
本紙より縦、横 4~5 センチ位大きな紙
- 本紙 = 裏打ちする和紙(メインの紙)
- 裏打ち紙 = 和紙。厚みは好みで選ぶ。本紙よりも縦横6~7cmくらい大きな紙。
- 裏打ち台 = 一般的には表面がなめらかなベニヤ板。
表面がつるつるした板なら何でもよい。
- のり = 糊や障子を貼る糊。
水で2~3倍にうすめる。
- 水糊刷毛、なで刷毛、霧吹き(スプレー式)

折り紙のプロの技を伝授するコーナー、不定期連載として復活。第2回は「裏打ち」の技法を紹介。2枚の紙をきれいに貼り合わせることができます。

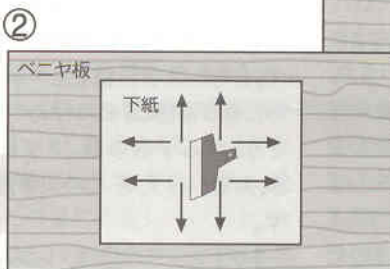
裏打ち方法1

板の上に下紙を置いて霧吹きを充分にする。

はけ
なで刷毛で中心から
軽くなるようにして
空気を抜いていく。

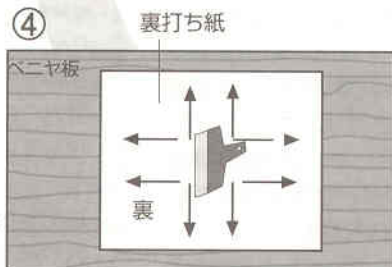


本紙(千代紙の場合は裏が上)

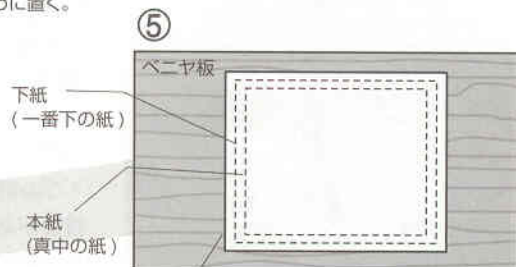


下紙の上に本紙(千代紙)を置く。
本紙を下紙に重ねたら
1,2の手順と同じようにして霧を吹きかけ、
なで刷毛でなでて、
しわの残らないようにする。

注 本紙(千代紙)は裏が上になるように置く。



別の板の上で
裏打ち紙に糊刷毛で
裏面に糊をつける。



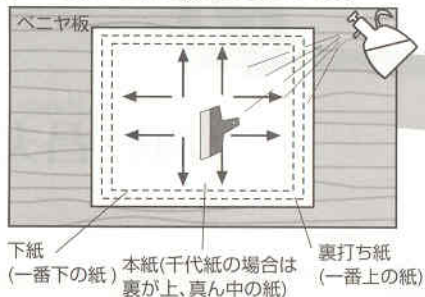
糊を付けた裏打ち紙を
千代紙(本紙)の上に重ね、
なで刷毛でしわや空気を
丁寧に抜いて平らにする。

裏打ち方法2

ベニヤ板1枚の上でできる方法

方法1の③まで同じに処理した上に、
直接裏打ち紙を重ね、
しわや空気を抜くようになる。

①

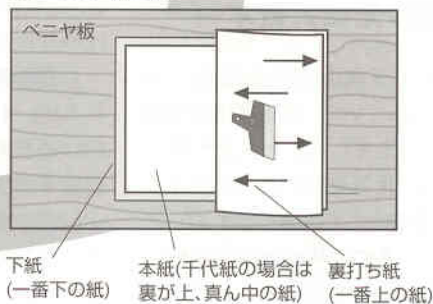


裏打ち紙を半分広げて、
その部分に糊刷毛で糊を塗る。
①の状態に戻してしわ、空気を抜く。

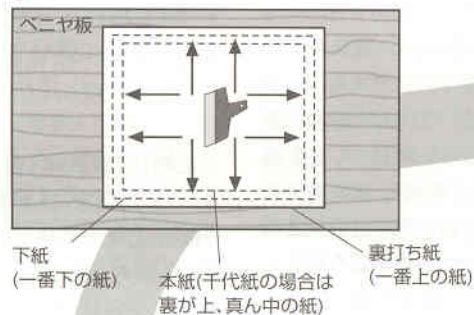
②



③ 反対側も同じ



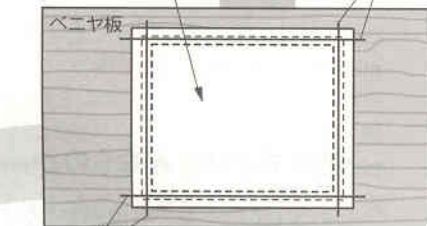
④ しわ、空気を抜く。



⑥

カッターで刃を入れ
この部分を剥がす。

カッターの刃を
入れるところ



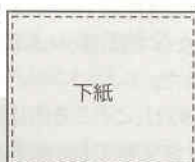
そのまま2、3日間
室内で乾かす。
乾いたら下紙の
ところまで定規をあて、
カッターで切る。

カッターの刃を
入れるところ

⑦



⑧

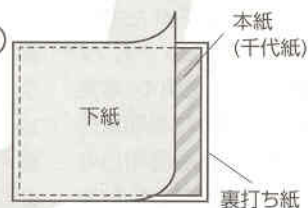


⑩



できあがり

⑨



本紙(千代紙)の表に
ついて下紙をはがす

おりがみ庵

Origami-an : A Philological Survey of Origami

第4回

読み歩き

Okamura Masao
岡村 昌夫

『折紙教本 前編』

内山道郎(光弘)述 日本手芸美術協会、1931年

---幻の光弘式教本---

著者は「日本手芸美術協会 石見直三」となっていて、石見が序言を書いているが、先ず「---之を本会が発刊したことは、世界最初の折紙に関する専門的の著書として誇ると申すより、之を著書とするまでに熱心に研究を続け努力されたる、発案者・内山道郎氏の功績であります。」と言う。「世界最初の云々」は正しくないが、続いて内山の経歴、業績などを紹介しているあたりは、資料的な意味が大きい。「内山氏は伊勢の津生まれの人でありまして、生家は藤堂家の家臣である増山氏から養子をしたものであります。元来器用で山林局の図工をして居った経歴がありますが、其の職務の余暇に此の折紙の研究をしたのが始まりであります。其れは只今から、約二十四五年も以前のことでありますが、氏が折紙に興味を持つに至ったのは氏の実母は、元、御殿に奉仕されましたが其節、覚えられた古来の折紙を氏に伝授されたのであります。」また「簡易印刷機」の発明や、本業としての「地理模型」に触れて発明家の側面を紹介して「氏は之れ等発明の為に十数万円の私財を投じ、殆ど全財産を消費して、尚も研究に没頭して居る、隠れたる社会公益の奉仕者であります。」と書く。折紙作品を次々に商品化

し、実用新案特許を取り続けたためだけの財産消費ではなかった。

石見の序言はさらに「氏の事業から見るとき、本書は僅か一部分を示したものに過ぎず、亦た本書が一回に総てを網羅することは、甚だ困難である。---先ず前編を発行して、一日も早く諸賢の参考にして便益ならしめ且つ、之を動機に尚ほ一層の研究同好者の多からんことを望みて、発刊を急ぎたるが為め内容に於て遺憾とする点あるを謝して序言とします。」「---先ず前編を」とあるが、続編が出版されることはなかったようだ。上の序言は「昭和六年十一月」の日付けになっている。

翌昭和7年3月号から『婦人倶楽部』で光弘式折紙の連載が始まる。その1年前の同誌に2ヵ月連載された「阿部たづな先生」の名作「六歌仙」「紙雛15人揃」の後を受けて、在野の名人が「新案折紙」を連載したのであるが、翌年の3月号の紙雛が「誌面の都合で」休載になり、つづく4月号に鶴と鷺を載せたのを最後にして、突然誌面から消えてしまう。光弘(こうこう)、内山道郎(1878-1967)はこのとき50代半ばの若さで、「誌面から」のみならず世間からも消えてしまうことになった。

昭和7年(1932)、このころ内山は伝通院近くの礫川堂文庫で「折形手本忠臣蔵」を写すなど研究心はなお旺盛だっ

たが、会社を共同経営者だった友人に乗っ取られ、破産した結果、世捨人となって隠棲してしまったという。(ただし、昭和9年には三嶋大社の折紙神像を創っている。)ここで終わっていただろう。最晩年になってからの「重ね折り」や、神業の如き「花紋折り」については知る人も多いが、戦前の「光弘式折紙」については残された資料が極めて少ない。

この『折紙教本(前編)』は幻の本であった。内山家にも無いということで、折り紙研究家でも見たという人を知らない。長崎の故児玉一夫氏が「見るまでは死ねない」と長年にわたり探し続けたが発見出来なかった。私も児玉氏から頼まれて気にかけていたところ、たまたま「玉川学園教育博物館」が所蔵していることを知って、コピーを取り、児玉氏に送ってたいへん喜ばれたことを思い出すが、すでに10年の昔である。

---光弘式とはどんなものか---

幻の本なので、少し引用が長くなるが、この本の巻頭で内山が述べている概説を以下に要約する。

「全く従来の手段的加工作用を打開致しました私の新方法発見」が新しい一種の芸術を樹立することを確認して、新しい折り方について述べよう。

先ず、従来の折紙は用紙を切らないという局限、窮屈があったが、光弘式の「第一須要条件は、用紙の適所に缺を

一九三四年東京生まれ。都立高校の国語教師を六年前に定年退職。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



利用するということであり。鋏を利用すると申ししても、決して不規則に縦横無尽に作用するものではなく、折紙の有する本質を損はない様に鋏を利用すると云ふので、此の法則発見が私の苦心致した所であります。」

ここに発見された六十余种の「基本形状」(岡村注、用紙を放射線状の折り線で畳んだもの)を分類すると「三折、四折、五折、六折、八折、十折、十二折、十六折等とし、また截鋏の個所を二ヶ所、三ヶ所、四ヶ所、五ヶ所、七ヶ所、八ヶ所等に分けて居ります。つまり折るべき目的に依って、各自所要の折方に適するやうに鋏を入れることになるのであります。」

---その他の特徴---

「特に申して置きたいことは」という前置きで次のようなことが述べられる。

紙の裏面を決して表面に出さないこと。「光弘式に於ては紙の裏を利用せなければ折れないと、云ふが如きことは絶対にないのであります。」折る目的物によって、なるべく簡単な近道によって実物を模倣できることが「基本の意義」だが、場合によっては問題がある。例えば、猫と虎は折り方が同一であって、明確に区別することは無理である。鯛と鮓、西洋人と日本人との区別も同様で「彩色に依りてするより致し方がありません。」

裏面を出さないというのは「美意識」によるものであろうが、インサイドアウト

が盛んな現代からは隔世の感がある。また彩色の必要については、いつも寅年になると縞模様を付けた多くの折り紙に出会うことを思い出して苦笑させられる。

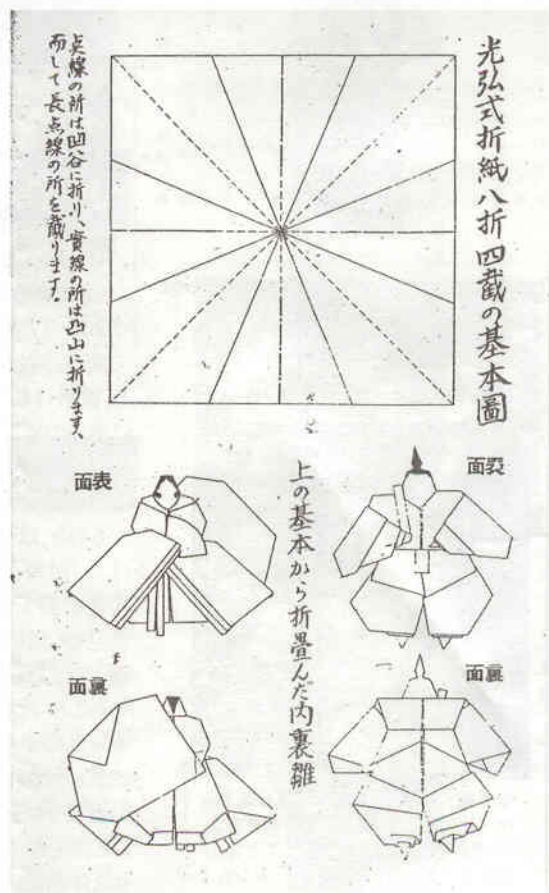
---古い折り紙との関係---

実は巻頭近くに次のような記述がある。「従来の折紙細工に於ける基本形状について云って見ますと、これは用紙を絶対に截断しない事を条件として居ります故に--」従来の折り紙と光弘式とを比較するとき、内山が実母から習ったという江戸時代からあった多くの伝統的な折り紙を除外していることに気付く。

光弘式は、古くからある基本形をもとにして、バリエーションとして数多くの「基本形状」を生みだしたのだ。切り込みについては、法則的に基本形状について行うという説明だが、人物の持ち物をはじめ必要に応じて鋏を入れる部分は法則外のこととしているようだ。

また人物の衣装の形などを、何の基準も決め

ずに「ぐらい折り」の段折りで作るなどは、江戸期の折り紙にはあまりなかった特徴である。これは再現性に問題があり、光弘式の彩色展開図が次々に販売されていたことと関係するかも知れない。「阿部たづな」が不必要なほど基準にこだわっているのと対照的である。(次号につづく)



前川 淳の 新折紙 散歩

悪魔の足の冒険

第4回

- The Adventure of The Devil's Foot -

今回の副題はシャーロックホームズ譚から、段落名はビートルズのナンバーとアルバムから取りました。



筆者紹介＝東京生まれ。折紙紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらし」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

In September, 2000, my wife and I visited England to attend the BOS Autumn Convention. We walked and looked around the place so eagerly, so we finally found materials for this article.

The title of this essay is from Sherlock Holmes story, and paragraph titles are from Beatles.

Eight Days A Week

九月、紅茶とミステリーの本場、英国に行ってきた。主目的はBOS(British Origami Society)のコンベンションへの参加で、同会でもさまざま収穫があったが、そちらは別のページで触れることにして、ここでは「散歩ネタ」に絞って話題を提供したい。わずか一週間の滞在だったが、呆れるぐらい散歩しまくり、このページに相応しい材料もいくつか見つけてきた。

まずは、かの地の折紙事情である。BOSのコンベンションは、英国内外合わせて、力のこもったひとが集まるわけだが、一般で折紙紙がどう認知されているのかも気になるところだ。その一端を、ロンドンのWater Stoneという書店で確かめた。神田の三省堂よりは小さいが、大きな構えの店である。古書も扱ってい

て、近くには、百年前に漱石が滞在した宿がそのまま残っていたりする。

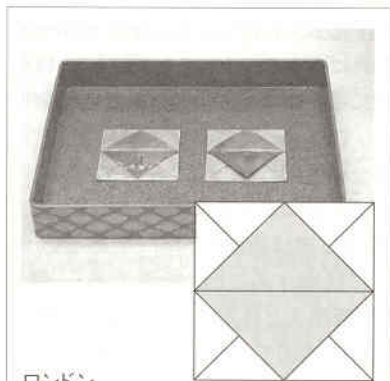
同店のArt & Craftのコーナーには、Decoupage, Marbling, Origamiという棚があった。デコパージュというのは切り絵装飾、マーブリングは墨流しによる紙の染色である。その棚に、Paul Jacksonさんの"Origami & PaperCraft"など、数冊の折紙紙の本が並んでいた。Origami、しっかりと根づいている。一般的な図書分類の項目にもなっているのだろう。

少しうらやましいと思ったのは、「おりがみの本、すなわち児童書」という感じがまったくないことだった。児童書が悪いというのではないが、日本では大型書店でも折紙紙が工芸の棚に並んでいることは少ない。

Past Masters

ロンドンには見るべき美術館博物館がたくさんあるが、ここで紹介したいのは、ヴィクトリア&アルバート(V&A)美術館である。岡村さんらの最新の研究によると、帆掛け船や風車の起源はヨーロッパにあるのではないかと考えられているが、折紙紙文化の幹のひとつが日本にあるのも、やはり間違いない。そのことを示すものを、はからずもV&A美術館で見つけた。同美術館は、世界最大の工芸品の美術館で、宝飾、服飾などの様々な工芸品が、開いた口がふさがらないほど収蔵され、ある意味、大英博物館より面白いところである。そこの日本コーナーにあったのが写真の畳紙だ。キャプションによると1700年頃のものとのことで、蒔絵の盆にうやうやく鎮座していた。世界広しと言えど、美術館に収蔵されている折紙紙作品は、そういくつもないだろう。

さて、ここでパズルである。この畳紙、一見単純なのだが、睨み折り(注)はそう簡単ではない。ぜひ挑戦してみてほしい。(大きいヒント:たぶん、用紙形は正方形ではない)



ロンドン
V&A美術館の畳紙
Tatou (paper wrappers) in V&A museum, London.

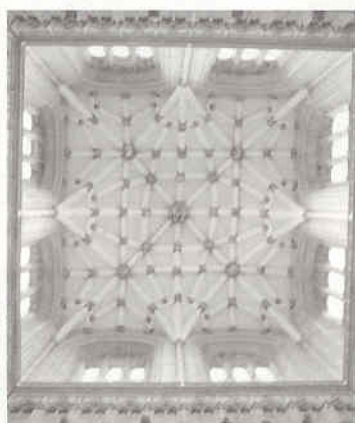
Here, There And Everywhere

BOSのコンベンションが開催されたのは、ロンドンから北へ二百キロ、二千年の歴史を持つ街ヨークである。城郭に囲まれた街全体がテーマパークという感じで、歩いているひとの八割がたは観光客だ。並ぶ店もほとんどが土産物屋に見える。そうした店のひとつ、ラッピングなどを扱う店のショーウィンドウに千代紙を発見した。パッケージの「藍染千

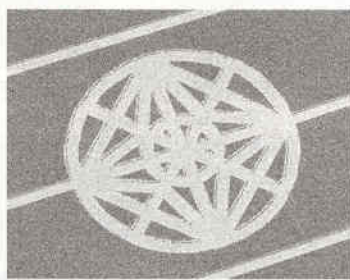
代紙」の文字は、石畳の街でみると実にエスニックであった。

さらに、ヨークの街でもうひとつ「折り紙」を見た。イギリス最大のゴシック建築であるヨークミンスター聖堂の中においてである。折り紙の折り目がゴシックを思わせるという話は以前も聞いたことがあるが、まさにその通りだった。下から見上げた塔の天井、これは、座布団折り(注)した鶴の基本形ではないか。

このように、わたしは、何にでも折鶴の匂いを嗅ぎつける。そう、何にでも。例えばこの「写真」だ。



ヨークミンスター大聖堂の「座布団折りした鶴の基本形」
York Minster Cathedral
I see a blintzed bird base.



ミステリーサークル(折鶴型)
A Mystery Circle (bird base type)
(This is a fake image. 合成画像です。)

…って、これは冗談、合成でんがな。

There's A Place

最後は地名ネタである。ロンドンから南に100キロぐらいのサセックスに、なんともこのページ向きの道があった。BOSの会報にも載ったそれは、Folders Lane (折り手通り) と言い、BOSの会員でもある Kriss Buddleさんが偶然発見したものだ。残念ながら現地まで足を伸ばすことはできなかったが、前号の金沢市折達町(すじかいまち)や鶴ヶ島市羽折をしのぎ、大鰐町居士折紙に匹敵する地名

である。いやあ、世界は広い。

なお、けっこう期待していたのに空振りだったのが、ロンドンのリージェンツパークの薔薇園だった。園そのものは、さすが音に聞こえた名園で、たいへん素晴らしかったのだが、Origamiなる品種名の薔薇一羽鳥公士郎さんが、Ron Arrudaさんの情報として教えてくれたもので、実在する一には出会えなかった。ちなみに、イギリス産の薔薇の品種に

折紙辞典

【睨み折り】(にらみおり) 名詞

作品の完成形をにらむだけで、解体しての分析などをせずに、その作品を折りあげる技。折り紙達人への修業として、たいへん効果的である。睨むだけで折ると言っても、折るときは手を使う。ほんとうに睨むだけで折れたら、大槻教授と対決するべきであろう。

【座布団折り】(ざぶとんおり) 名詞

正方形の四隅を中心に合わせて折ること。座布団の布地の使い方と同じことからくる…と思われがちだが、通常の座布団は、長方形の布地を二つ折りにすることでつくられている。その場合、かたちも正方形ではなく、奥行きが幅よりわずかに長い。正座した際に幅よりも奥行きの方が長いためである。また、縫い目がない部分を正面に置くのが正式とされる。

英語では、Blintz Foldという。Blintzというのは、パン皮に具を包む料理のことだ。(ほとんど雑学辞典だな)



Folders Lane (折り手通り)
Photo by Kriss Buddle

は、Red Devilなるものもあり、こちらは、東京調布の神代植物公園の薔薇園でも見ることができる。「悪魔の前川」としては、オリヅランの隣で栽培してみたい気がする。

以上、話はあちこちに飛んだが、「散歩」ってのはそういうものだ。

■少しずつ、少しずつ、冬の足音が近づいてきています。今回の色紙百花は、冬咲きの花のなかでも特によく知られているペゴニアの登場です。色紙という限られた空間のなかであるにもかかわらず、はるかに外界に広がるひんやりとした空気の流れを感じさせるような作品に仕上がっています。

■今号のびっくり箱は、ユニットの布施氏というイメージからはちょっと意外な、一枚折りの平織り作品です。ねじり折りを基調とした平織り作品はこれまでも数多く発表されていますが、この作品もまた平織りブームをまきおこそうですね。自然な方法で立体化することによって、魅力的な陰影も生み出されます。

■10月15日まで長野県のハーモ美術館で展示されていた、海外作家の作品のなかから2点を掲載しました。こうした展示では、海外作家と日本人との視点の違いを再認識させられることが多く、意外な発見があって非常に勉強になります。すみずみまで計算しつくされたような作風で一切妥協を許さないLang氏と、コミカルな表現で親しみのある人物像を創作したAlbertino氏、両実力派の情熱あふれる作品をご覧ください。



「ペゴニア」作:田中具子 (P.8)

Begonia : Tanaka Tomoko (P.8)

■ももとは南米の高地原産だそうです。現在ではさまざまな品種がつくりだされています。冬咲きのものは一株に多数の花をつけて全体的にこんもりとしたイメージになり、色も白からピンク、赤などさまざま。本物の花と作例をじっくり観察して、画面内での効果的な構成を工夫してみてください。

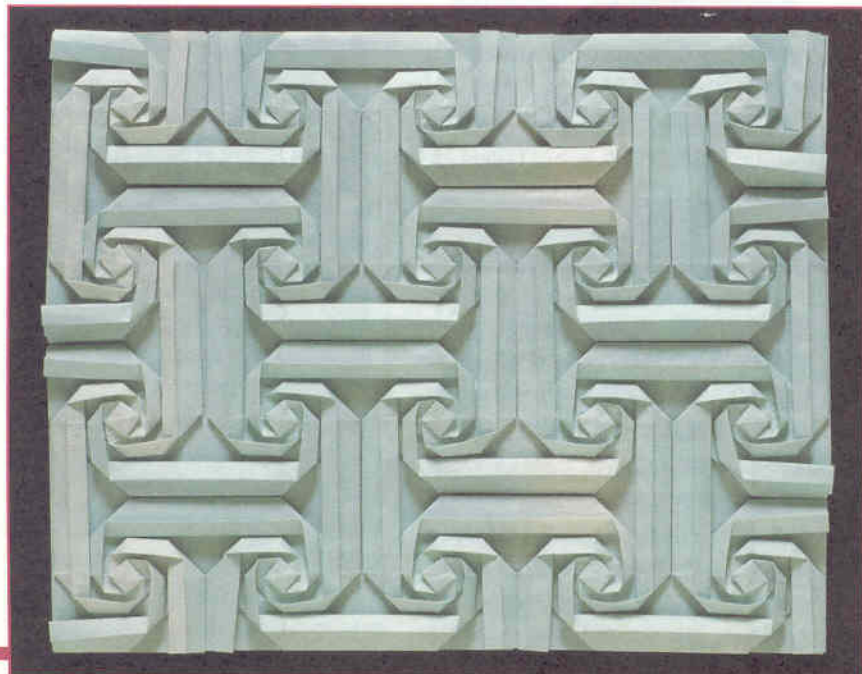
「ぜんまい折り」

作:布施知子 (P.4)

Whirlpool Patterns (Inspired by a shape of zenmai (= a kind of fern) flowers)

: Fuse Tomoko (P.4)

■折り線をつける工程に少々手間がかかりますが、完成形を取り出したときには、そこまでの苦労をはるかに上回る満足感が得られることでしょう。作品名は「ぜんまい折り」ですが、竹を編んだ籠やギリシャ神殿の柱のようにも見えます。読者のみなさんは何を連想されましたか？



「魔女」

作: リオネル・アルベルティーノ (フランス)

Witch : Lionel Albertino (France)

■見ただけで声色までも思い浮かべてしまうほどに魔女のイメージを見事に再現した。非常に魅力的な人物造形。全身が立体的に構成されていて、前後左右どのアングルからの鑑賞にも堪えるようになっています。漫画チックな表情やポーズまでも組み込むことが可能な余裕のある構造からは、作者の技術力の高さがうかがえます。



「鯉」

作: ロバート・J・ラング (アメリカ)

Carp : Robert J. Lang (USA)

■もはや説明不要、まず全身のうろこの表現に圧倒されます。「これだけの手間をかけた折り紙作品というものが存在するのか!!」と誰もが衝撃を受けるはずです。ラング氏ならではの入念な仕上げ技術によって初めて実現可能となる、重厚な仕上がりをお楽しみください。



クリスマスのプレゼント

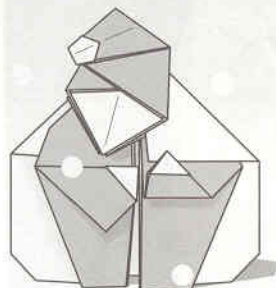
Christmas Present

作 西川誠司

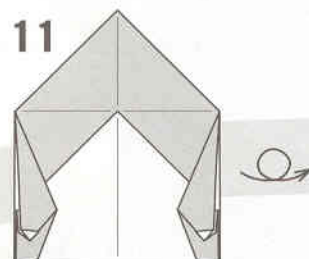
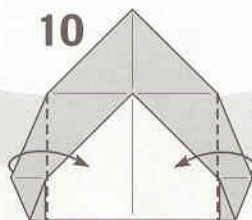
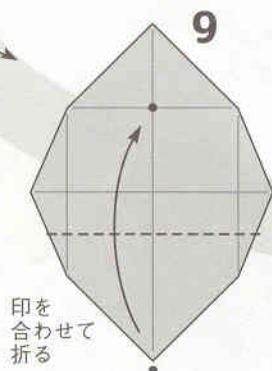
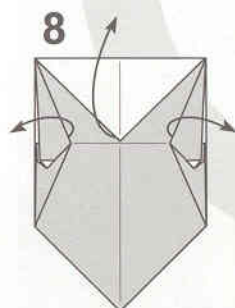
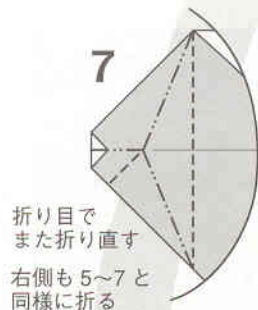
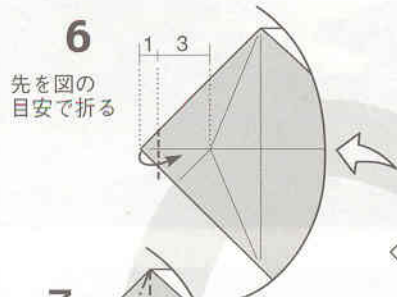
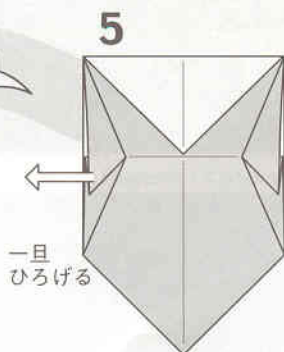
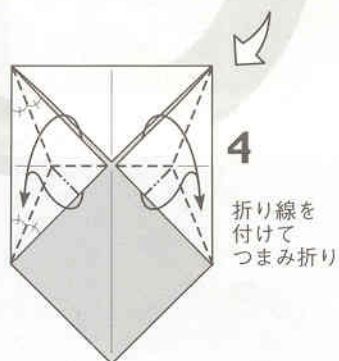
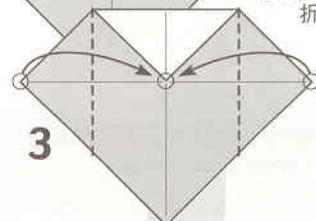
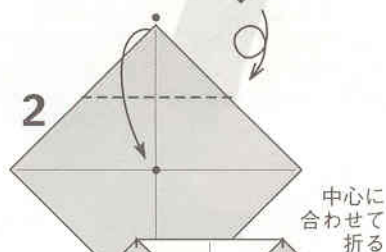
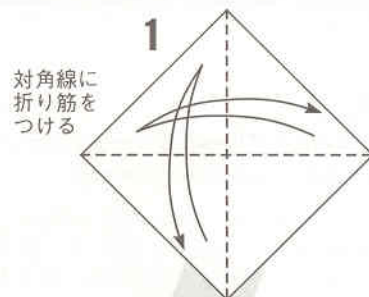
Model designed by Nishikawa Seiji

折り図 小松英夫

Diagrams produced by Komatsu Hideo



Merry Christmas!



先を図の
目安で折り返す

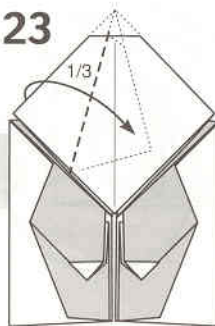
21



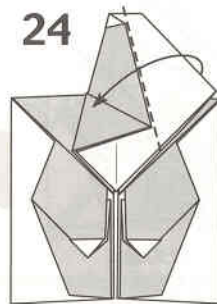
22



23

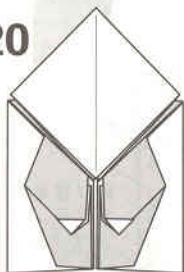


24



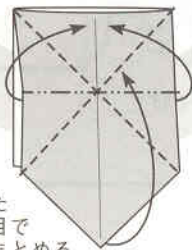
カドを三等分するように折る

20



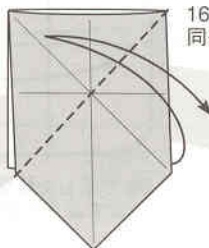
ほんの少し
拡大

19



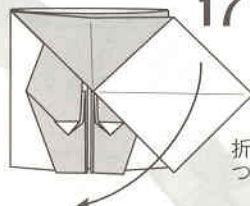
つけた
折り目で
折りまとめる

18



16~17と
同等に折る

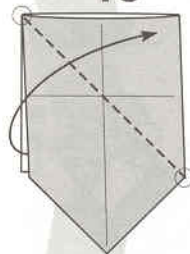
17



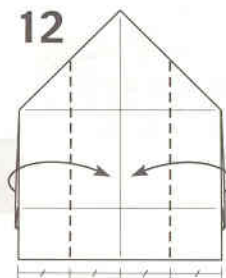
折り目をつ
けて戻す

16

縁を
合わせて
折る

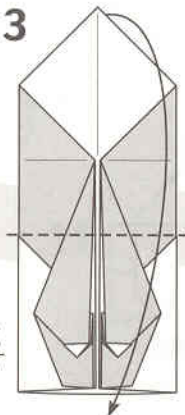


12



辺を中心に
合わせて折る

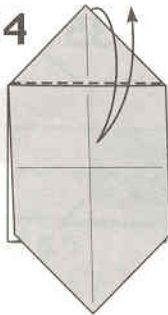
13



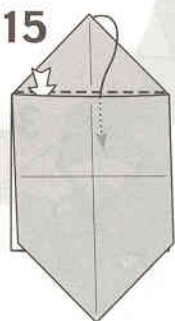
大きく
折り返す

縁に沿って
折り目をつける

14

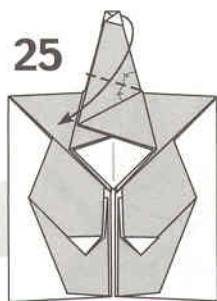


15



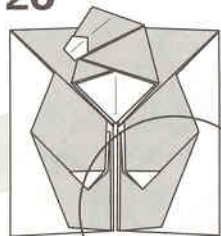
隙間に
折り込む

25

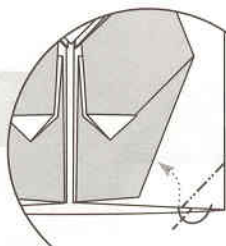


ヒダの縁に
合わせて折る

26

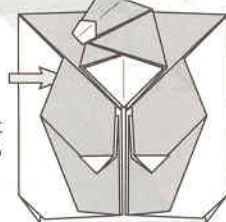


27



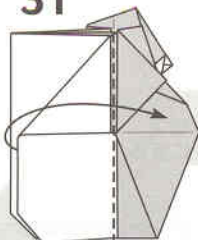
中割り折りで
カドを取る
反対側も行う

28



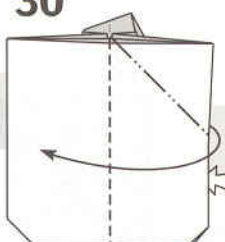
矢印は
30で参照する

31

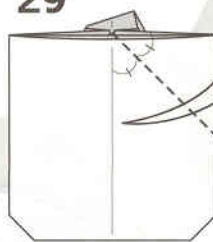


しっかり
つぶしたら
折り返す

30



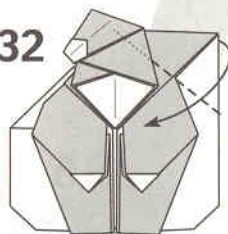
29



折り目を
つける

28で示した隙間をひろげて
つぶすように折る

32



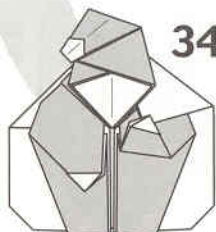
中心線に
合わせず
斜めに
ずらして折る

33



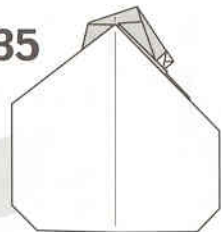
腕を
折り曲げる

34

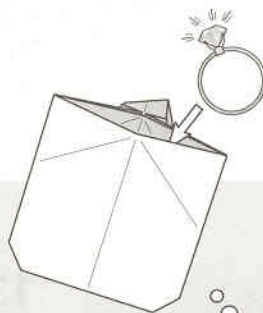


できあがり 前

35



できあがり 後ろ



袋の口を30まで戻し、
中にプレゼントを入れて
また折り直します。

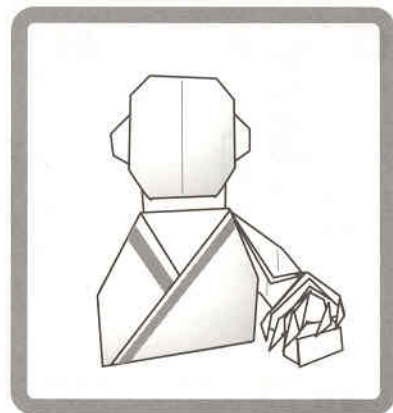
ちょっとした思いつきで生まれ
た作品です。実際にどのよう
に使ってもらえるかとても興味
があります。(西川誠司)

すし一丁!

"Hey, Sushi!"

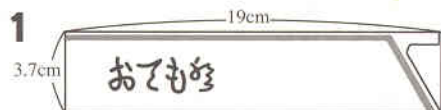
2000年5月20日 創作
2000年8月21日 作図

木下 剛
Kinoshita Go



作者より二言三言

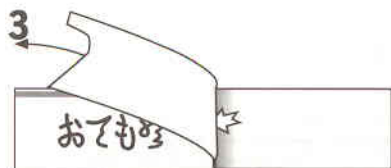
全国の折り紙好きの皆さん、お待たせしました。
あのTVチャンピオンに登場した最強の(最凶の?)
即興折り紙が、遂に折り図になりました!!
それではあの江戸寿司(東京都東久留米市)の箸袋をゲットして、
箸袋が手許にない方も図4の比率で紙を作って
早速折ってみよう!!



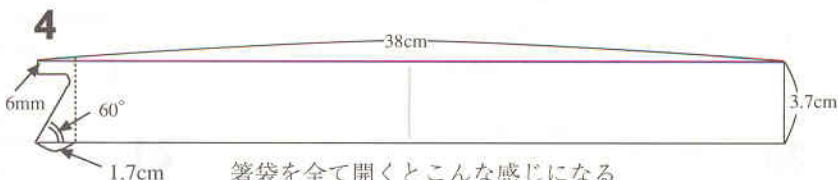
江戸寿司の箸袋 (のつもり)



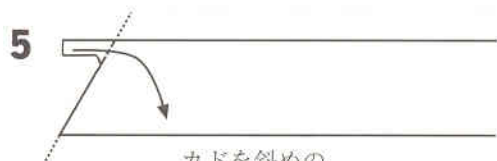
指を入れて箸袋をていねいに開く



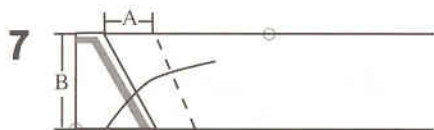
途中・・・



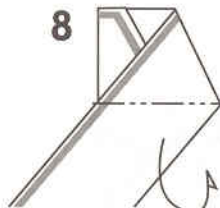
箸袋を全て開くとこんな感じになる
次の図は左側の部分を拡大する



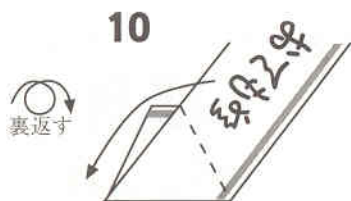
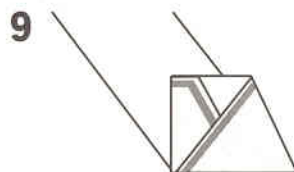
カドを斜めの
縁に沿って折る



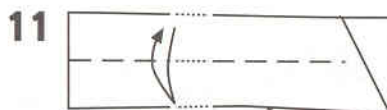
上の辺と左下のカドが合うように折る
この時 A:B= 大体 1:2



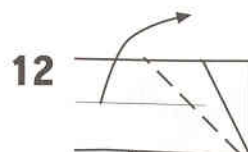
裏に折り返す



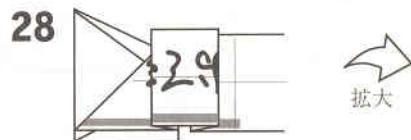
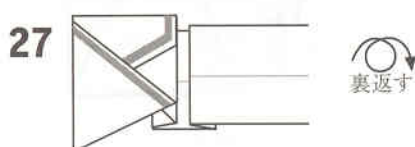
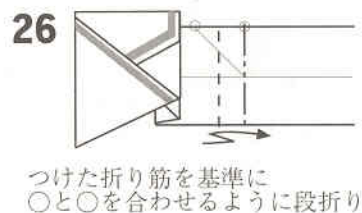
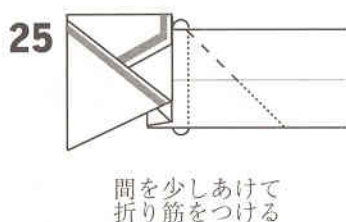
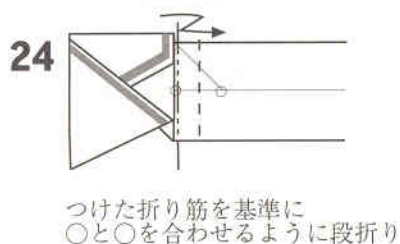
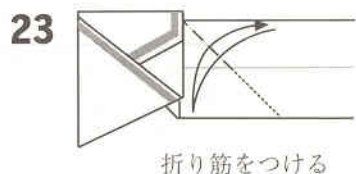
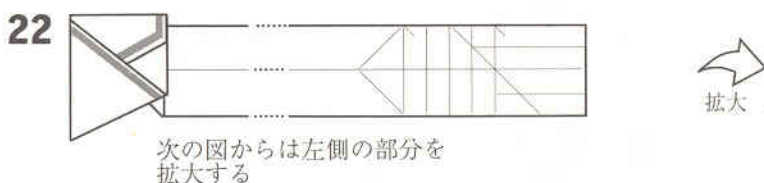
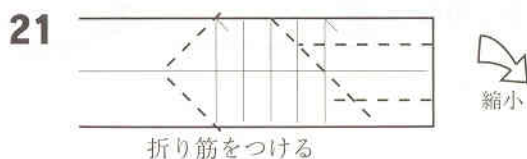
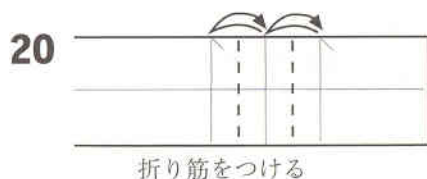
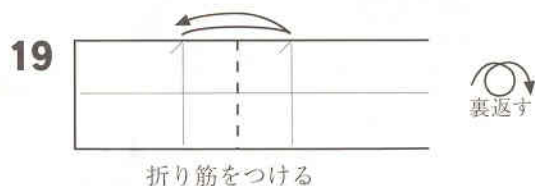
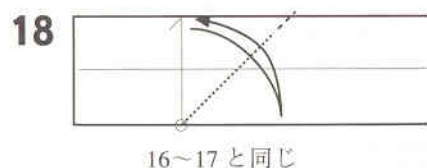
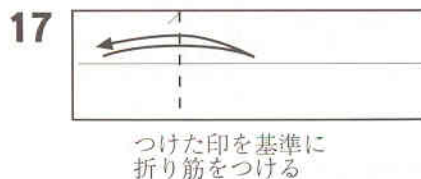
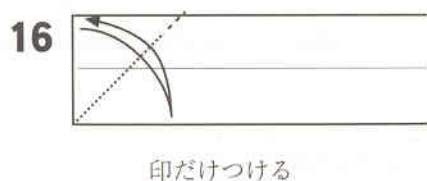
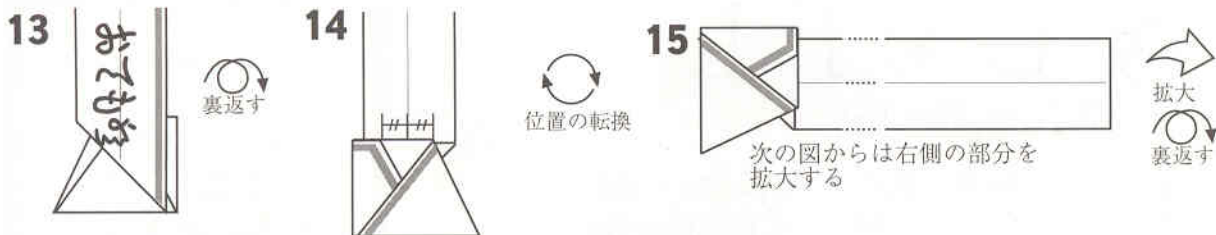
裏返す



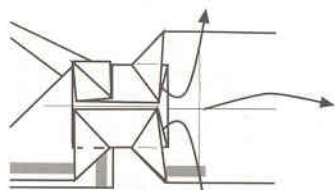
箸袋の端まで
折り筋をつける



折り上げる

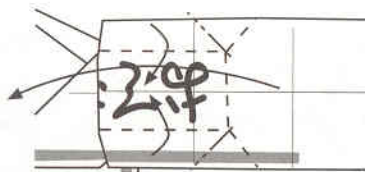


30



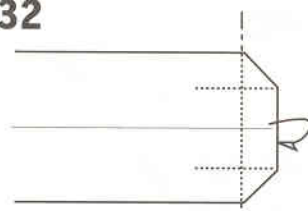
右側の部分だけ
少し開く

31



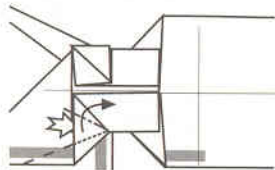
ついている折り筋で
図のように折り畳む

32



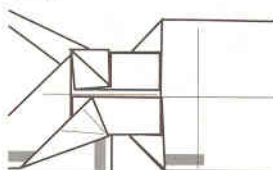
裏に折り返す

33

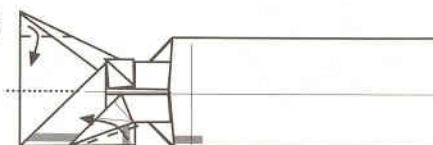


ずらすように
開いてつぶす

34

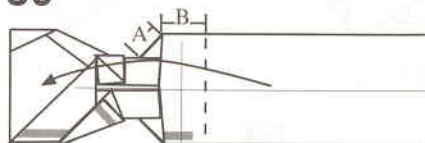


35



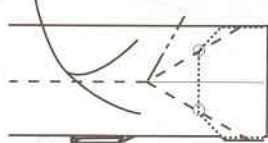
左側の部分が中心線に
大体対称になるようにカドを折る

36



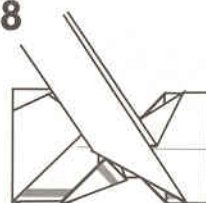
$B > A$ の比率で折る

37



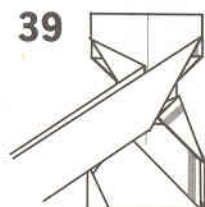
図のようにつまんで折る
(かなりぐらい折り)

38



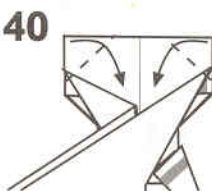
位置の転換

39

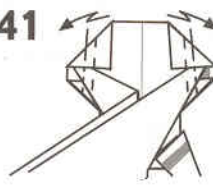


次の図は頭の部分を
拡大する

40

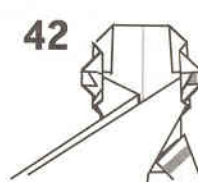


41

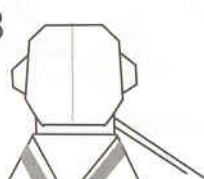


段折りして耳を作る

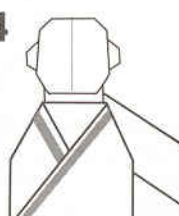
42



43

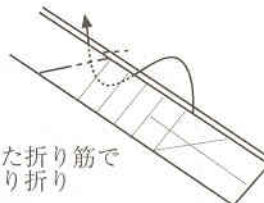


44

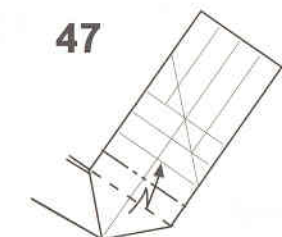
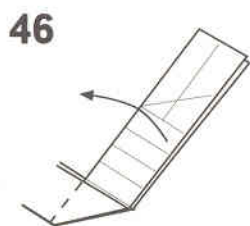


次の図は腕の
部分を拡大する

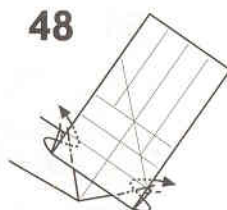
45



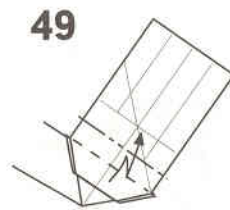
つけた折り筋で
中割り折り



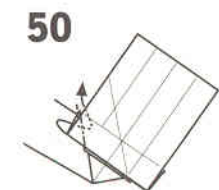
つけた折り筋で段折り



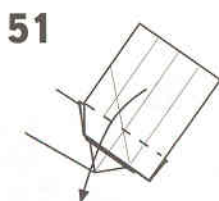
縁に合わせて中割り折り



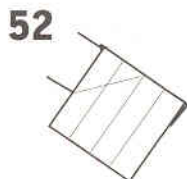
つけた折り筋で段折り



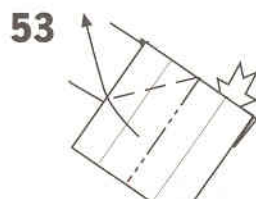
縁に合わせて
中割り折り（左側だけ）



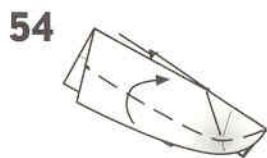
つけた折り筋で折る



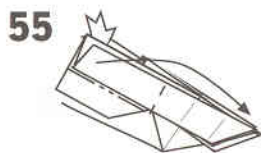
拡大



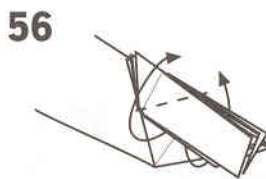
つけた折り筋で
引き寄せるように折る



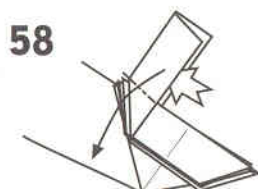
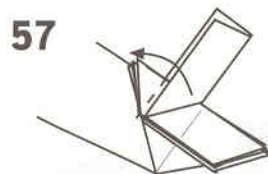
途中・・・



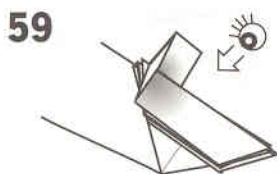
開いてつぶす



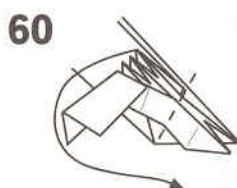
かぶせ折り



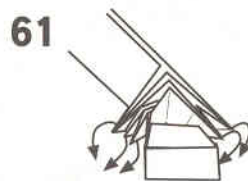
カドを立体的に
まとめる



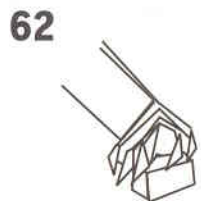
次の図から
見る位置が変わる



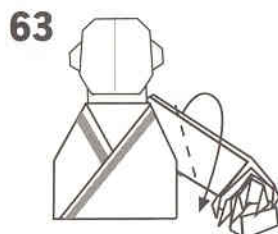
カドを折り下げる



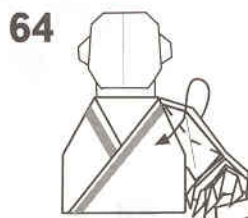
指を折り曲げ
寿司を握った感じにする



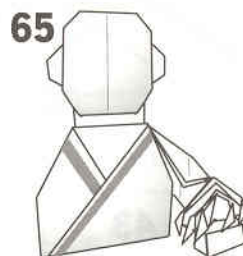
縮小



腕を折り曲げる



中割り折り
形を整える



できあがり

そういえば、江戸寿司の大将は「技術的には知りませんが、早くできたところをみると簡単なのかも知れませんね」とかおっしゃってたけど、この折り図を見ても同じ事がいえるかなあ？ そりゃ確かに、100 工程以上ない作品だけど、ぐらい折り多いし折り筋のつけ方とか少し変だし・・・

そもそも即興作品ってえのは、折り図化なんて全く考えてないもんだから、描く方としては折りやすいように最小限の手直しをせざるを得ませんでしたけど、それでも「即興作品」というものの醍醐味を知ってもらうには十分だと感じております。

あとは何人折ってくれるのかなあ・・・（←意味深）

勝ちゃんの面白折り紙

Kat-chan's Fun Origami

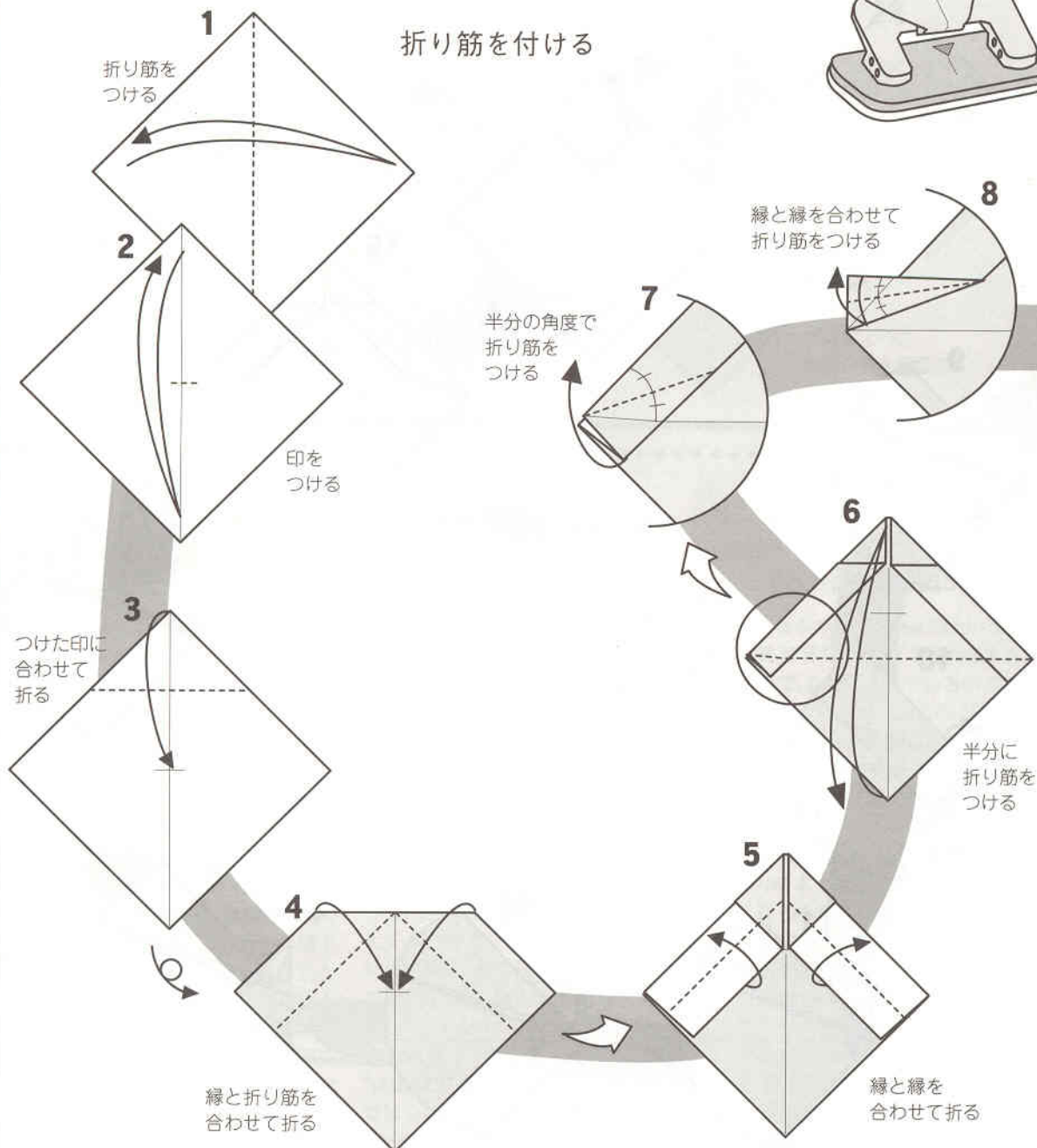
かえる

Frog Hole Punch Cover

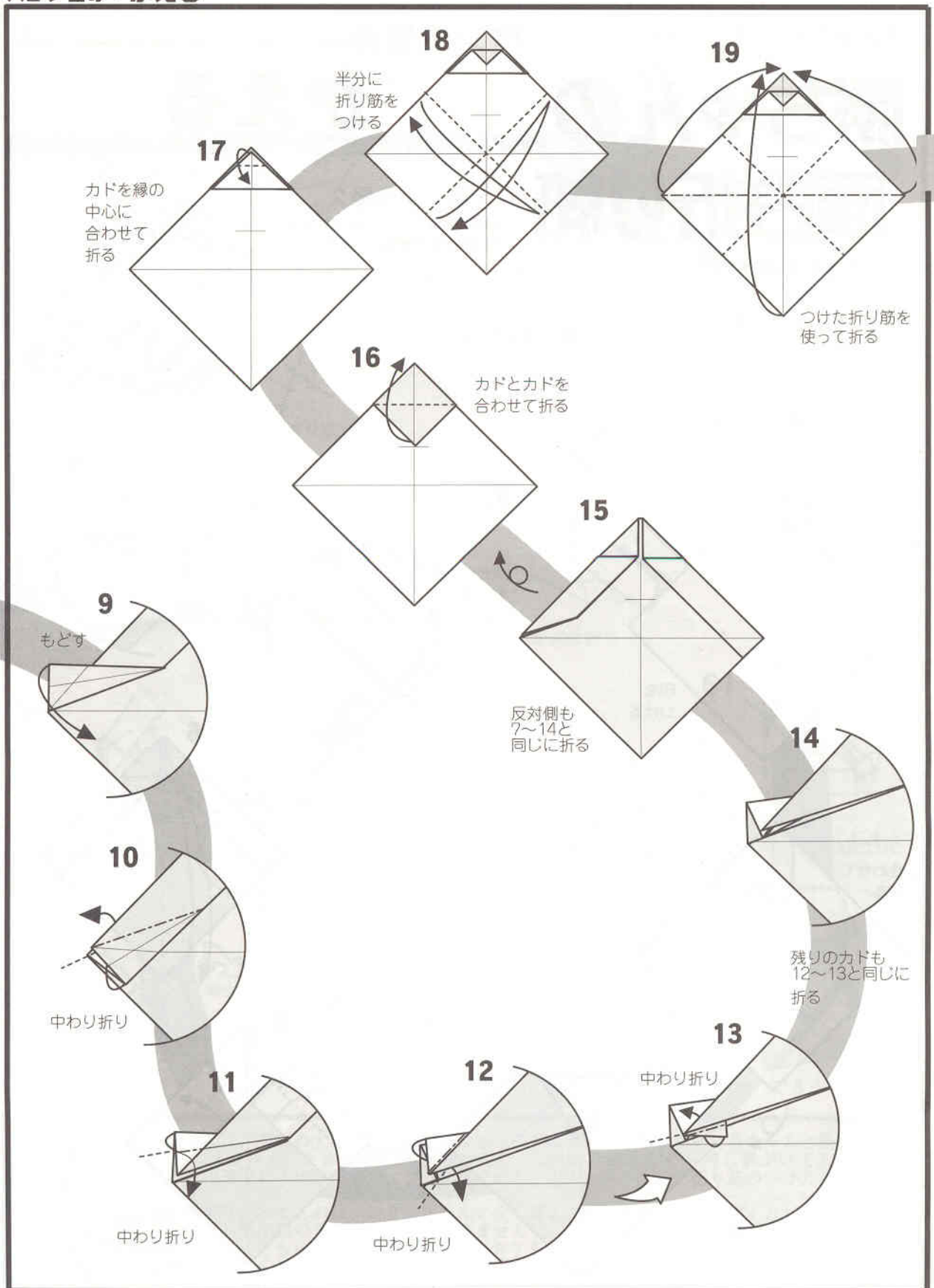
24cmの紙を使用して下さい。

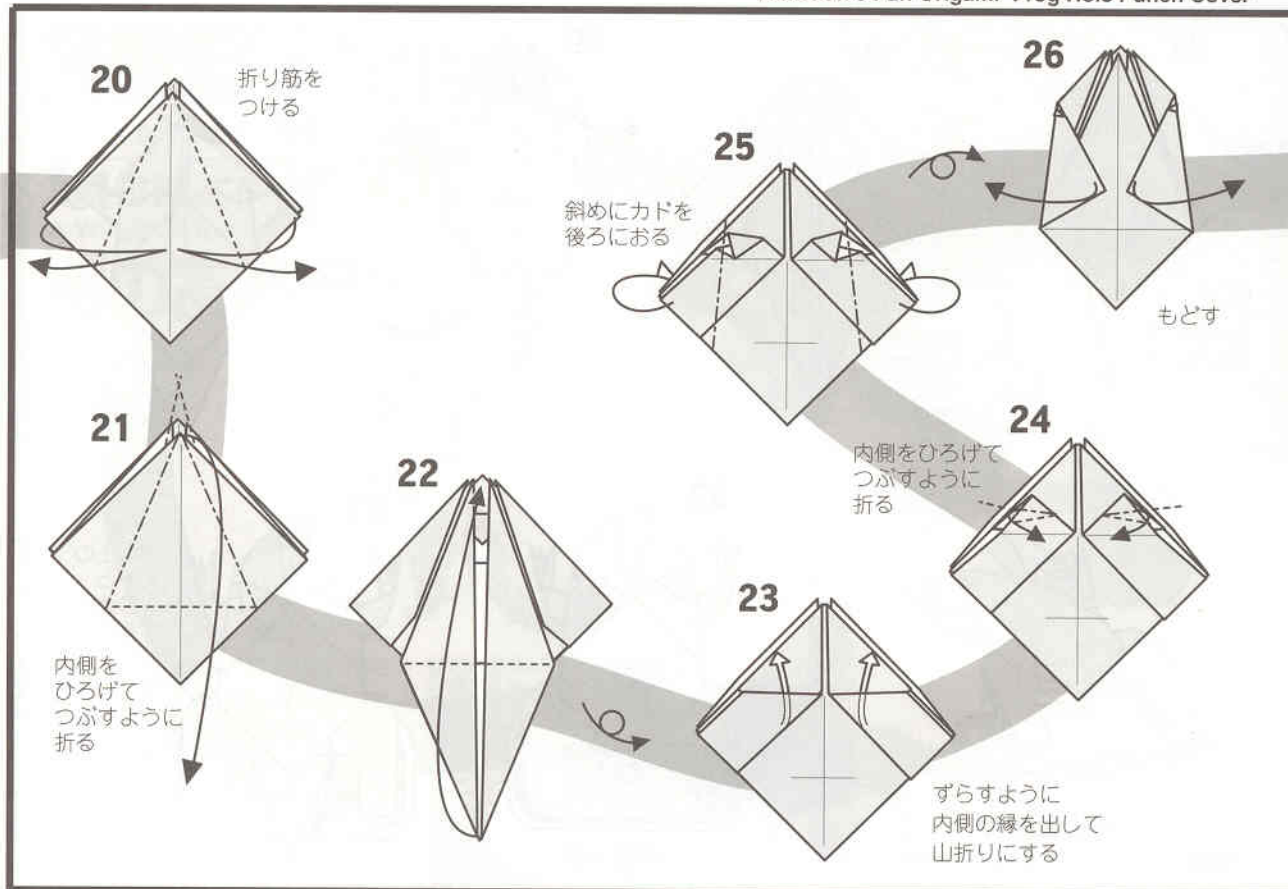
作・図／山田勝久

model designed by Yamada Katsuhisa
diagrams by Yamada Katsuhisa



腸ちゃんの面白折り紙
パンチ包み・かえる





Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙と言葉

Terms of Origami

Tateishi Koichi

立石浩一

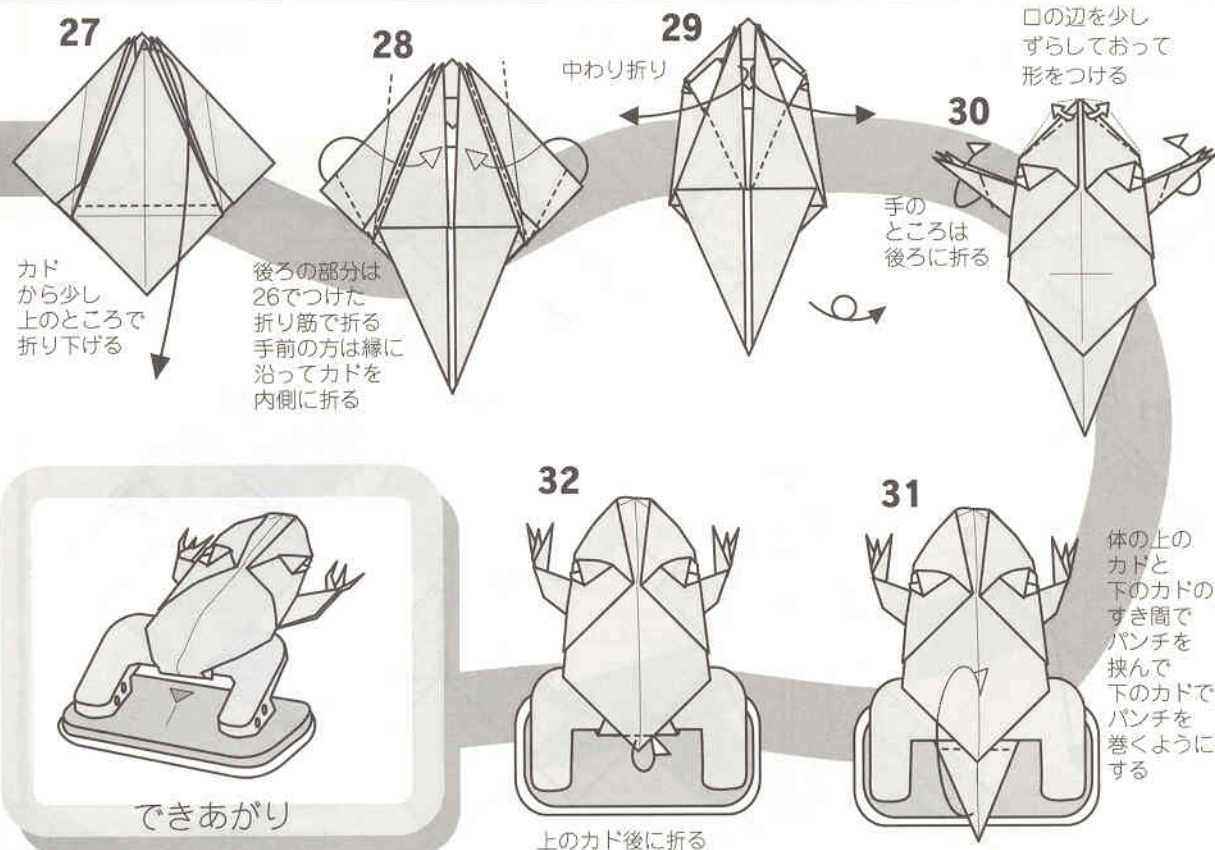
母親がトライしては止めていた折り紙本から興味を持ってはや30年以上。連鶴に傾倒していた時代を経て、京都に就職してすぐの『ピバ! おりがみ』ショックも覚めやらぬ内に『をる』の存在を知り、ずっと本屋にありがたそうに陳列されていた『をる』を買う決心を3年目にしてし、購読するものの直後に『をる』が休刊、どうしようと思っていた時期に探偵団の存在を知り、Web上の掲示板にメンバー登録するものの、学会になる年まで2年間ただ様子を見ていたという決断力の無い立石です。その後は、いろいろと書き込んでおりますせいか、最近では関西友の会のホームページ管理人をし、関西コンベンションの講師役などもしております。

長い前フリはこのくらいで、本職が

英語教師で言語学を専門にしている関係で、ここ数回『折紙探偵団』の記事タイトルの英訳チェックをしており、また本屋の洋書売り場に行って折り紙の本を買って棚から消滅させたりもしているのですが、そこで気がついたことがいくつか。「山折り」・「谷折り」等の英訳は、「mountain (valley) fold」で、直訳なのですが、「沈め折り」、「引き出し折り」、「段折り」は「sink」、「pull out」、「pleat」で「fold」が付かないんですね。理由を考えてみた時思い付いたのが、「折る」という言葉は「木の枝を折る」も含むもので、薄い、細い物の変形を皆含むのに対して、「fold」は折り線で紙を重ねる場合だけ使うのかな?ということ。すると、「sink」は重なりを隠してしまうので「fold」ではない、また、「pull out」もすでに重なりがあるのを引き出すのでこれもまた違

う、となるのかも。「pleat」というと、これは英英辞典などで「布をfoldすること」なので、foldは入っているのでもわざわざ言わない。こんなところに「折り紙」と英語の「paper folding」の違い(なぜ「origami」という英単語が出来たのか)が関わってるのかな、などと思ったりします。

もう1つは「折図」の数え方。日本の折り紙本では、10種類のコンプレックス折り紙の載っている本は「10個」の折図がある、というのですが、アメリカの折り紙本では、「この本には1536の折図が載ってます」などと言う。単純に図の数を数えてるわけですね。ひょっとすると、この辺で、今話題になっている、折り紙の著作権に関わる感覚にずれが出てくるかも知れない、と思うと、けっこう怖い物があります。



折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

④

創作者の権利

Rights of creators

折紙もある種の知的営みの結果として新しい作品が生まれるものである以上、創作者に何らかの権利が発生するであろうことは、多くの人々の認めるところでしょう。先の総会でも会員の方から著作権に関する質問があり、またホームページの掲示板やメールなどでも問い合わせや話題となることがあり、関心の高さがうかがえます。日本折紙学会では規約の中でこのような問題を研究してゆくことを目的の一つとして掲げています。「親から子へ子から孫へ」と象徴される伝承文化としての折紙の特徴の一つが、ともすれば権利主張の応酬になりかねない法律議論などに比べてなんとなく平和的と捉えられることもあるでしょう。けれども、ある作品が個人の知的営みの結果と

して生まれているものならば、これらに関する権利を保護するのは、あとに続く創作者の育成の面からも極めて大切な問題と考えるべきでしょう。個人的な経験を含めよくあるケースの対処方法を記してみます。

折紙教室や展示会で他人の作品を営利を目的とせず使用する場合、原作者の許可を得て、原作者の明記をお願いしたいと思います。使用によって利益が発生する場合、原作者との間で何らかの合意が必要だと思います。原作者によっては「どうぞ」の一言の場合もあるでしょうが、使用される皆さんには発生する利益を按分して原作者の利益を確保する努力をお願いします。これらは、原作者と利用者の相互理解が大切であることは言うまでもありません。原作者側も

一旦公表したものについて、いたずらに使用制限したりするのも考えものでしょう。先号の記事にあった「天狗の面の根付」については、当初根付け制作側に折紙のデザインについて原作者が存在するとの認識があまりなかったようでしたが、原作者側の説明を良くご理解いただき、原作者の権利に対して好意的な対処をしていただきました。折紙の世界は経済的には未成熟で、音楽やマンガや小説と違って原作者一利用者を通じて分かち合う経済的利益はまだ小さく、様々な手続きにかかる労力そのものが見合わない状況が多いかも知れませんが、学会としては多くの理性的な議論を通じてこれらの問題についても、安心して創作し、安心して利用できる考え方を研究してゆく所存です。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

第10回

A Winged Lion

翼のあるライオン

Kozasa Keichi

小笹 径一



翼のあるライオンの展開図を、某K氏の力を借りることにより、皆様にお見せできるということになりました。(K氏に感謝……)

この作品はもともとは、蛇腹を生かした“たてがみ”を持つ“ライオン”でした。しかし図1で見るように、紙に使わない部分(不要部分)が、出てきます。

ここで、創作者のさがと言うか……ここを使って何かできないかと、いうことで出てきた作品です。まあ、ちょっとした“イタズラ”と、いったところですか……。

ヒントというか、ほとんど答えなのですが、図2をのせます。

しかしこの展開図では、基本形??まで、という感じです。全体の形は写真を見て、ニラミ折りということに……。また、顔の部分は吉野一生氏の作品の「虎」を参考に折り込んでいますので、まあ一言で言えば、沈めて(open sink)、広げて、折り込んで……という感じです。これもまた、ニラミ折りで……。

ニラミ折り、ニラミ折りと言って無責任と思われそうですが、これが“展開図折りの魅力”??ということで、おゆるしください。

この作品の折り図を描くに当たって「翼のある～」では、名前が……。もしカッコイイ名前をつけてくださる方がいらっしゃるのなら、こちら(k-kozasa@pb3.sonet.ne.jp)に連絡いただければと……。いつの日か、その名前で折り図をお見せできるかも???

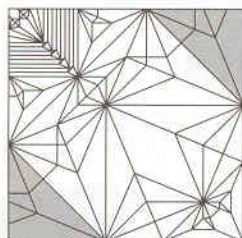


図1

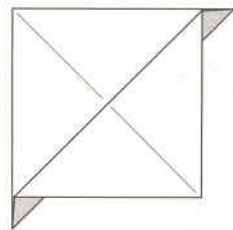
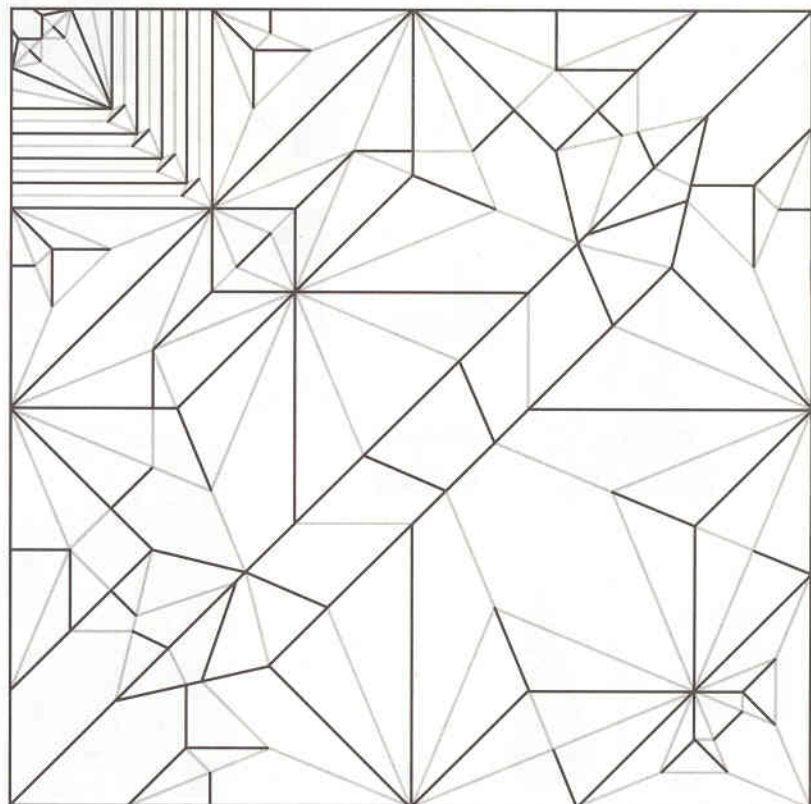


図2



——— 山線 ——— 谷線

Origami Deutschland通称ODは、1989年にブラジル人の Paulo Mulatinho (パオロ・ムラチーニョ) ドイツ人の Silke Schröder (シルケ・シュレーダー) ご夫妻の熱意でミュンヘン近郊の Freising (フライジング) で発足しました。デンマークの Thoki Yenn (トキ・エン) さんも相談役としてODの設立にたいへん力を貸されました。「der falter」(デア・ファルター) という70ページの機関紙をPaulo氏の編集で年に2回から3回発行していました。Paulo氏は本国でデザインの勉強をしていただけに、写真の扱いやレイアウトがハイスセンスと、すぐに評判になりました。人物とその仕事の紹介記事が中心で、他には各国コンベンション案内など。今のところドイツ人より、イギリス、フランス、オーストリア、それにアメリカや日本の作家紹介の方が多くようです。しかしドイツ国内にもオールラウンダーの Klaus-Dieter Ennen (クラウス・エネン) 氏など創作家はすごい吸収力をもって育ちつつあるようです。機関誌の他にごくたまに Ernst Blauenstein (エルンスト・ブラウエンスタイン) 氏の折り紙数学紹介などのブック



Origami Deutschland (ドイツ)

文・布施知子



レットも発行されています。会員は国内外合わせて300人ほど。Silkeさんは現在も自宅で各国の折り紙本と紙の通信販売をしています。年一回開かれるコンベンションには50～80人程度があつまり、ドイツという地理的条件もあるのでしょうか、やさしい情熱家の Paulo 氏の人柄にほれて、海外からの参加も毎年相当数にのほりました。

二代目会長は幾何学折りを得意とする Heinz Strobl (ハインツ・ストローブル) 氏、三代目はまた Paulo 氏になりましたが、Paulo 氏は思うところ

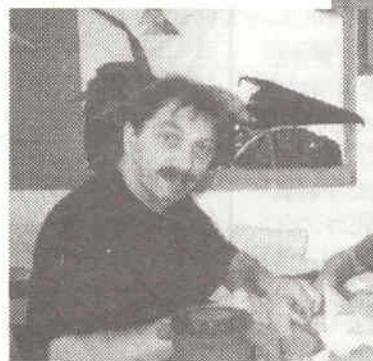
あって折り紙の組織からの引退を決意し、昨年からは Eduard Maier (エドワルド・マイヤー) 氏です。それに伴って OD は体勢を一新し、本拠地も Eduard 氏のすむ Karlsruhe (カールスルーエ) に移り、編集は20代と若い

Sebastian Marius Kirsch (セバスチャン・キルシュ) になりました。はりきってスタートを切った新スタッフですが、トラブルがあって現在 OD の活動は休止状態、と聞いています。トラブルを克服して、一日も早い活動の再開を祈ります。お問い合わせは次のところへどうぞ。http://

www.papierfalten.de



■年2～3回発行の機関誌「der falter」人物とその仕事の紹介記事が中心



■ドイツの作家
Klaus-Dieter Ennen氏

■不定期発行の
ブックレット

■現会長のEduard Maier氏

突撃

北條高史の折り紙レポート 折り紙シミュレータ編

日本折紙学会でも情報通として知られる高井弘明氏から、興味深い話題が折紙探偵団東京友の会に届けられた。コンピューターの画面上で、まるで現実のように折り紙を折ることができるプログラム「折紙シミュレータ」がインターネットで紹介されているというのだ。作者は中京大学情報科学部助教授の宮崎慎也先生。筆者は早速このプログラムを自宅のパソコンに導入してみたのだが、果たしてどんな作品が折れるのだろうか？

折紙シミュレータ」作者の宮崎先生は、1992年の大学院時代に研究テーマの一環としてこれを制作されたとのこと。宮崎先生の研究室ではこのほかにも、ゴムのような弾性物体の変形をコンピューター上で再現するなど、バーチャル・リアリティに関する研究が数多くなされている。

では早速、このプログラムの基本的な動作から始めてみよう。

プログラムを起動すると、画面上に正四角があらわれる(図1)。頂点(カド)となっている部分をマウスのポインタ矢印でつまみ、そのまま引きずるような感覚で、自由な角度で谷折りをすることができる(図2)。そして、また新しくできた頂点もつまんで折り返すことが可能。複

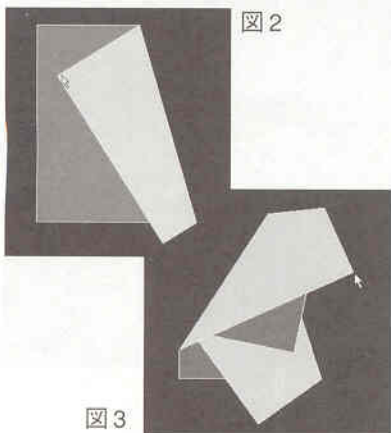
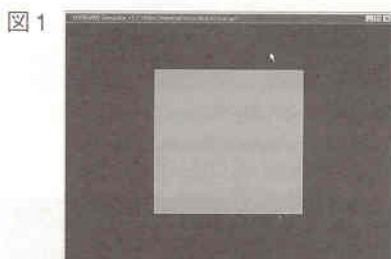


図4



数回の折りを繰り返しても、紙の重なりがきちんとして保存されているのがわかる(図3)。こうして、山口真氏創作の「シャツ」も問題なく折ることができた(図4)。この「シャツ」は、実際に折ったことのある方はご存知だと思うが、襟周辺の紙の重なりが変則的で、工程は短いもののある意味で「複雑」な作品である。ちなみに筆者はこのほかにも、折鶴(伝承)、ぶた(伝承)、かざぐるま(伝承)、手(前川淳・作、図5)なども折ることができた。

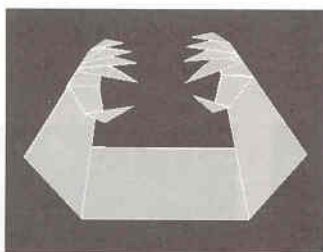


図5

「折紙シミュレータ」の特筆すべき点は、こうした「折ることによって複雑に重なった複数の層に於ける、各層どうしのつながりかたの認識、折りが可能な位置・範囲の判断」がきわめて正確になされることにより、さまざまなパターンの折りが再現できることなのである。

科学技術計算プログラムを多数開発している前川氏に使用感を伺うと、「これ

までにも、コンピューター上で折り紙を再現するプログラムをいくつか見たことがあったが、このように直感的に操作でき、納得できる動作をするものはあまりない」とのことだった。

この折紙シミュレータは、「操作法」をわかりやすいものにするため、すべての作業をマウスポインタでこなせるようにする」という方針のもとに完成させたという。こうした理由と、さらに開発当時のコンピューターの計算能力の限界から、いまのところ可能な作業は谷折りとなかわり折りだけになっている。よってほかの折り技法、たとえば内部に隠れた部分の引き出しとか、なかわり折り可能な層が複数あった場合にどこに指定するか等、面倒な命令を要するであろう操作に関しては、現時点のプログラムは対応していない。しかし実際に筆者が操作してみた感覚では、「こうした技法はこのプログラム上ではすでに実現可能になっていて、ただ命令の入力方法が付いていないだけではないか」と思えるくらい、現時点のものでも完成度が非常に高いという印象を受けた。このような操作に関しては、次回の改良時にはきっと克服され、わかりやすい入力方法で実現できるようになっていることだろう。

現在、多くの創作家が作品の折り工程図を描くためにパソコンを使用しているのはよく知られていることである。しかし現時点では、製図用のプログラムを使ってひとつひとつの工程図を描いているので、結局のところはペンと定規をパソコンの中に持ち込んだような状況だ。一方、折紙シミュレータなら、パソコンの画面上で実際に折りの操作をおこなうだけで次の図が描かれる。これを折り工程図作成に使えるようになれば、今までよりもずっと作図作業が容易になり、また加速することだろう。

このプログラムのさらなる改良・発展に、おおいに期待したいと思う。

Windows 95/98/Me/NT/2000を搭載したパソコンをお持ちのかたはぜひ、実際にプログラムを使ってみたい。宮崎先生の研究室のホームページ(アドレスは<http://www.vgf/scs/chukyo-u.ac.jp/>)からダウンロードできるようになっている。

Rabbit Ear つまみおり

Information

BOS コンベンション レポート

文・前川 淳

BOS(British Origami Society)のコンベンションは、春と秋、年に2回開催される。歴史の街ヨークで開催された秋のコンベンションに、妻とふたりで参加してきた。

この会には、BOSの会員の国際性を反映して、英国内はもちろん、国外からも多数の参加者が集まる。じっさい、オランダやベルギーはブリテン島の目と鼻の先にあり、パリ・ロンドン間は東京・大阪間よりも近い。時々ドーバー海峡を泳いで渡るひとがニュースになるくらいである。とは言っても、参加人数は折紙探偵団コンベンションのような規模(250人)ではない。今回は、ヨーロッパの石油危機による交通の乱れもあり、例年より参加者が少なかったそうだが(泳いできたひともしなかった)、もともと百人弱の集まりで、折り紙が何より好きなひとたちが、お茶を飲みながら折り紙の話を楽しむ、といった雰囲気である。メインの講演などを除いてプログラムも暫定的なもので、その場の成り行きで講師が決まることもある。

一方、10時のコーヒープレイク、3時のアフタヌーンティーはしっかり取る。Origami USAをモデルにした探偵団コンベンションのような組織された会もよいが、BOS式のゆったりもまた心地よい。参加者の多くが会場の施設に宿泊することも、ゆとりを生んでいる一因だろう。

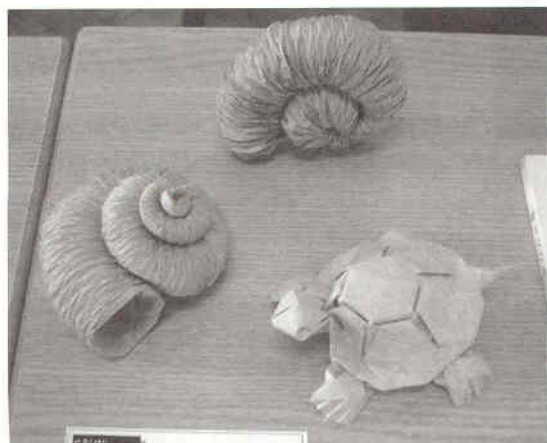
展示物を作者自身が紹介する時間も面白い。これも比較的少人数だからできることだが、探偵団コンベンションでも、ツアーガイドのような作品説明コースなどを工夫してはどうだろうか、などと考えた。

展示 作品で個人的に心魅かれたのは、ベルギーのHerman van Goubergenさんの、紙のデモンストレーションによって組み合わせられるユニット作品群、フランスのRomain Chevrierさ

んの亀と巻き貝、Jon Shapcottさんの鷺、Stephen O'Hanlonさんのドラゴンなどだった。どれも、独創的なアイデアや優れた技法のある作品だ。こうした作家・愛好家と、夜遅くまで話をする(拙い英語ながらも)のは、折り紙好きの至福の時間である。



鷺(3枚) by Jon Shapcott
Eagle from three pieces of paper



亀と巻き貝 by Romain Chevrier
Tortoise and spiral shells



隣り合うひとの手を左右の手にして羽ばたく鶴を折るゲーム
A game in which two neighbors use one hand for each and fold a flapping bird

Southeast Origami Festival

サウスイースト・オリガミフェスティバル レポート

前号でお知らせしたサウスイースト・オリガミ・フェスティバル(ノースカロライナ州シャーロット)が9月19日から26日にわたって開かれた。2年に1度開かれるこのオリガミ・フェスティバルも今年で第3回目。毎回新しい展開が試みられるので参加者を飽きさせることがない。

何が 出てくるか判らない(プログラムはあるのだが想像がつかない)オリガミ・フェスティバル。今回の特徴はなんといってもボランティアによる折り紙教室の多さだろう(前回もあったのだが、今回ほど数は多くなかった)。会期中に150を数える折り紙教室が、シャーロット郊外の幼稚園をはじめ小、中、高校の授業の中に特別に取り入れられた。

スタッフが手配したボランティアを、教室を希望する学校から車で迎えに来るのだが、こちらの学校は始まるのがやたら早いところがあるようで、7時前に迎えに来るといったことが普通である(勿論午後の教室もある)。慣れない内は、講師を務めるボランティアもこの辺から緊張してしまったようだ。

参加者のコメント

たまたま、日本語で折り紙を教える人を探していたため、急きょ、私も現地の学校を訪ねて教えることになりました。幼稚園生と小学生のクラスでした。口がパクパク動く犬を教えた時のことです。口が動くことは、出来あがるまで秘密にしておきました。犬が出来たと子供達が気付いてから、私は、犬の口の動きに合わせて、「Bow wow」と呼びました。すると、子供達も折り紙を手に取り、鳴きまねをはじめました。お互いに犬語で話をしたり、けんかをしてと大騒ぎでした。誰もが犬になってしまっ、子供達と一緒に折り紙を楽しむことができました。(島村麗子=埼玉)

▼ライフサイズのブラキオサウルス



街中 が折り紙展の会場のようにもなるとも特徴である。世界中から寄せられた作品が、空港に始まり図書館や銀行、証券会社のロビーなど、およそ20カ所に展示されている。街中に展示されているものを見て回るだけでも数キロ歩くことになる。健康にはいいだろうが、ちょっぴり根性が必要だ。滞在して楽しむ折り紙展といってもいいだろう。今回の展示作品の目玉は、川畑文昭氏創作のライフサイズの「ブラキオサウルス全身骨格」である。制作したのは現地のスタッフ。大きさ、仕上がりともに見応えのある作品となっていた。

布施知子氏のユニット作品と草月流生け花の合作展も目を引いていた(この企画は以前「をる」にも紹介されたことがあるのでイメージできる方も多いことと思う)。殆どが現地制作となったため、展示までの作業が大変であった。ジュン・サカモト、島村

麗子、山口真各氏もユニット制作のお手伝い。珍しいところではボール・ジャクソン氏の婚約者であるイスラエルのミリさん、他にも何人

▲プロデュースのバフォーマンスを交えた折り紙講習。絞って被って(?)水に浸してハイ、できあがり。

かの人が入れ替わりでお手伝いをしていた。

参加者のコメント

私はアメリカ家庭の子供が日本語を学んでいる小学校に行く機会がありました。日本語を話せると、将来仕事に就く時に有利なのだそうです。子供達は折り紙から、色、形、大きさ、長さなどを覚えていました。折り紙の後は「むすんでひらいて」を皆で歌いました。

日本のガイドブックにはなかなか載っていない街を、折り紙を通して訪れてみるのは楽しいものです。映画の題名で聞き覚えのあるアメリカ南部の名物料理「フライドグリーンマト」や南部独特の珍しい野菜も宿泊ホテルの隣のレストランで食べることができました。(松下節子=在NY Origami USA ボランティアスタッフ)

今回 の新しい試みとして、24時間ずっと開放されている折り紙広場(広めの会議室)が設けられ、教える人、教わる人がいつでも楽しめるようになっていた。特に「マスク」のジョワゼル氏、「マッシュルーム」のプロデュース氏のところには多くの人が集まり、ジョークを交えて気軽に教える姿がとても印象的であった。また、徹折りをしている人も多く見受けられ、皆本当にOrigamiが好きなのだと思感させられた。この部屋の入り口には徹夜で警備するガードマン(正体はボランティアスタッフ)がいて、参加証がないと入れてもらえないシステムになっていた。

さらに変わったところでは、好きなだけ紙を持っていつでもいいという部屋があり、コピー用紙、名刺、壁紙、ロールになった紙さらに全紙大の厚手の紙などが揃っており、くれくれ派にはたまらない企画もあった。

毎回、殆どのイベントを仕切るディレクターのジョナサン・バクスター氏の企画力・行動力に今回もまた改めて脱帽した。



▲作品制作をする布施氏とジュン・サカモト氏

参加者のコメント

会社の特別休暇を取りシャーロットに行った。非常に中身の濃い価値ある8日間を過ごせた。FESTIVALのプログラムで私は3小学校を訪問し教えた。子供達の素直で好奇心に輝く瞳が印象的であった。また土、日曜日の2日間は街頭での市民講習プログラムに参加し、教えることに燃えた。夕食は毎回折り紙の著名人達とともに行動しオリガミを通して会話交流を楽しむことができた。2年後のFESTIVALには皆さんもぜひ参加しましょう!貴重な体験・時間が必ず得られること間違いなし!(渡部国明=長野)



◆BSデジタル放送で折り紙番組

12月 1日からBSデジタル放送が本格的に始まるが、その中で、早速折り紙を題材として取り上げた番組が放送される。

ハイビジョンギャラリーと銘打たれたこのシリーズ番組は、魅力ある様々な世界を高品質な画像で記録する事を趣旨として制作されている。

番組では、広いスタジオいっぱいに並べられた折り紙作品を紹介しながら、設計法の説明、神谷哲史氏をはじめとする折り紙作家の姿、折り紙の歴史など様々な角度から折り紙の魅力に迫る。折り鶴の話では、岡村昌夫氏がVTRに登場。また、折

紙探偵団東京友の会の和やかな光景も伝えられる。

折り紙設計の方法論が大きく花開いた、あの昆虫戦争のエピソードも、当時舞台となったおりがみはうすで収録した再現ドラマを踏まえて紹介される。

さらに見逃せないのは、ゲストである前川淳氏とミステリー作家・綾辻行人氏のスタジオでのトークであろう。両氏の交流は、綾辻氏が著書の中に前川氏の「悪魔」を登場させたのがきっかけである。実際に顔を合わせるのは今回が初めてだったが、収録では軽快なトークで番組を盛り上げた。

ハイビジョンギャラリー

「この素晴らしいモノたち・折り紙」
12月22日(金)夜26時15分～

これまで多くの人が築き上げて来た折り紙の世界を、デジタル映像として後世に残す事ができるのは大きな財産と言えるだろう。



▲カメラの前に緊張気味の前川氏(右)。中央が綾辻行人氏

◆桑名で折鶴祭

殿様御台所祭／千姫折鶴祭

10月21日(土)・22日(日)に、「秘傳千羽鶴折形」の魯綿庵ゆかりの三重県桑名市で、「第十二回桑名の殿様御台所祭／千姫折鶴祭」が催された。毎年この時期に行われる、市をあげての祭りである。メインイベントは、全国から集まった千羽鶴のお焚き上げ。甲子園出場校のものなど、本当に全国から折鶴が集まっていた。(前川)



▲お姫さまに扮した女性が千羽鶴を天に帰す

◆まだ間に合う? 静岡コンベンション12月9、10日

■第3回折紙探偵団静岡コンベンションの期日が迫っていますが、参加に興味があってもまだ問い合わせしていない方、若干の余裕がありますので事務局にお問い合わせ下さい。■期日は12月9、10日の2

日間。場所＝静岡市・橘会館。主な内容＝「前川淳氏の折り紙おもしろ話」、豪華講師陣(西川誠司、前川淳、木村良寿、北條高史、小笹径一他)による折り紙教室、作品展示。費用＝4,000円、親子割引有り。

◆例会のお知らせ

※おりがみ用紙は各自持参をお願いします。

東京友の会

※12月は通常の例会はありません。

■忘年会＝12月2日(土) 午後6時～9時
文京区民センター3F 参加費4,500円。
申し込みは11月中。お問い合わせは事務局までどうぞ。

■東京友の会例会予定

会場＝文京区民センター
参加費＝400円(中学生以下半額)
講習会＝午後2時～
研究会＝午後4時～

●1月6日(土) 講師:堀口昌哉 教室:3-C
●2月3日(土) 講師:未定 教室:未定

関西友の会

12月10日(日)14:00～17:00
1部＝長岡京市産業文化会館
参加費:500円
講習作品:
2部＝場所を変えて懇親会
参加費:4,000円程度

静岡友の会

毎月第4月曜＝やさしい折り紙の好きな主婦を中心としたグループです。気軽に遊びに来て下さい。12月23日(月)はお休みです。
11月27日(月)13時～15時。お問い合わせは16時以降、054-254-4541(増武内 山口)

◆学会入会とバックナンバーのご案内

●日本折紙学会では随時会員を募集しています。購読から会員への変更も可能です。その場合は4,400円を郵便振替にて指定の口座へお振り込み下さい。

口座番号:00180-8-579860

加入者名:折紙探偵団

●第10期バックナンバーも購入できます(55号～60号/6冊3,000円)。料金を上記と同じ口座へお振り込み下さい。

※必ず通信欄に送金目的を記入して下さい。

■おたより大募集■
宛先
113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
ギャラリーおりがみはうす内
折紙探偵団編集部
E-mail webman@origami.gr.jp

折紙探偵団ホームページ公開中

http://www.origami.gr.jp/

団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

<休載のお詫び>

今号の「折紙×数理」は川崎敏和氏のご都合によりお休みさせていただきました。次号より連載再開予定です。お楽しみに。

折紙探偵団

2000年11月25日発行

第11巻4号通巻64号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/田尻敦士 松浦英子

折り図制作・デザイン/おりがみはうす

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

■ORIGAMITANTEIDAN / No.64 / Published on 25, November 2000 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "A Winged Lion" Produced by Kozasa Keiichi
- Photographed by Sato Hitoshi / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Tajiri Atsushi, Matsuura Eiko / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE

※このページの商品の取扱いはすべて「おりがみはうす」です。折紙探偵団の口座とは別になります。



第6回折紙探偵団 コンベンション 折り図集VOL.6 大好評発売中!!

B-5判256ページ
定価2,000円(税込)
送料420円(梱包込)

※郵便振替の場合は
用紙の「通信欄」に
必ず「第6回折り図集」
とご記入下さい。

神谷哲史氏の「パロサウルス」「天馬」、本誌60号に掲載された川村みゆき氏の「クイックスナップ」同じく60号表紙、西川誠司氏の「ドラゴン」、昨年静岡コンベンションで作品が展示された川畑文昭氏の「ムース」、木村良寿氏現役復活作「ちびけらとぶす」、62号の展開図に登場した小松英夫氏の「うさぎ」、笹出晋司氏の「巨大鳥型生物(ギャ○ス)」、吉野一生基金招待者ダニエル・ロビンソン氏の「シュモクザメ」、ポール・ジャクソン氏のシンプル作品などなど66作品収録。



■ 折り図鑑「昆虫 I」

B5判/全196ページ
カラー口絵 4ページ
定価: 3,100円(税込)
送料: 460円(梱包込)
川畑文昭、西川誠司・共著 山口 真・編

昆虫大戦争の熱い日々が今甦る。カラーページに全作品掲載。折り図の冒頭には口絵とは異なるアングルから撮った作品のモノクロ写真と作者のコメント掲載。



■ 折るころ

A4判 全108ページ
フルカラー48ページ
指導: 岡村昌夫
定価: 1400円(税込)
送料: 420円(梱包込)

本誌57号岡村氏の連載で詳しく紹介された「折紙の歴史展」の図録。折紙の貴重な歴史的資料満載で、折紙博士を自称するなら必携の一冊。

好評発売中

折り紙色紙百花 田中具子・著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル。
B-5判/120ページ/カラー口絵8ページ
定価2,500円(税込) 送料390円(梱包込)

面~The Mask~ 布施知子・著

作者がまだユニット折り紙に出会う前の情熱の作品群。
B-5判/200ページ/全27作品カラー写真紹介
定価3,300円(税込) 送料460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

B-5判200ページ カラー口絵8ページ 吉野一生 著
定価2,900円(税込) 送料460円(梱包込)

只今制作中

西川誠司作品集/西川誠司 著・西川折り紙の集大成。

折り図鑑「昆虫 II」/北條高史、前川 淳、目黒俊幸共著
世界で一番難しい折り紙の本第2弾。

折り図鑑「犬」/佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集
一所懸命制作中です。気長に待っていて下さい。



GALLERY ギャラリー

おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080
E-mail: origamih@remus.dti.ne.jp

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B-5判/箔押しロゴ入/雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能

はうすオリジナル 折り紙専用和紙

和紙両面おりがみ

2枚の民芸紙を貼り合わせて作りました。折り筋が付きやすく、もみ紙の風合いが作品づくりの幅を広げます。

サイズ/30cm×30cm 5色調/20枚入 定価1,350円
送料: 1セット/390円(梱包込) 2セット/580円 3~4セット/700円

※和紙両面おりがみは見本をお付けしています。
御希望の方は80円切手を同封の上、おりがみはうすまで。

絵はがきセット 限定50部

布施知子ユニット作品絵はがきセット

1セット18枚組(18種類) 定価1500円 送料160円
美しい自然と調和するユニット作品を絵はがきにしました。

●商品の申し込み方法●

郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)を送って下さい。
ご希望の商品名と連絡先の記入をお忘れのない様お願いします。

(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入して下さい。)
入金を確認次第、商品を発送させていただきます。

郵便振替番号 00120-9-715400
加入者名 おりがみはうす

折紙の世界に新しい波が!

大判折り紙 選べる24種類

(35×35cm)

通信販売にて好評発売中!

折り紙の作品づくりに最適な高級紙を厳選。
普通の折り紙とは質感が違います。

厳選
創作専科
折り紙

ご好評の折り紙、**実物見本帳**ができました。

入手方法等については直接お問い合わせ下さい。

お問合せ TEL 03-5244-6061
FAX 03-5244-6065



あなたの創作活動をサポートします。

創作専科

株式会社 ポップ・アイ 創作専科
〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-10-7

TEL (03) 5244-6061

FAX (03) 5244-6065